

●乗合馬車營業取締規則

三百七十二

第二十一條 車掌馭者及馬丁就業中ノ服装ハ左ノ制限ニ從フヘシ但
破損又ハ汚染シタルモノハ着用スルコトヲ得ス

一 車掌及馭者ハ帽子筒袖ツボン并靴

二 馬丁ハ大黒帽子又ハ饅頭笠及法被股引但雨雪泥濘并ニ炎暑
ノ時ハ半股引(膝ノ上部ニ)ヲ用ユルモ妨ケナシ

三 雨具ハ護謨又ハ桐油其他絨類製

第二十二條 車掌馭者及馬丁就業中ハ免許證ヲ(馭者ハ馬匹ノ)携帯シ
警察官吏又ハ乗客ニ於テ見シコトヲ求ムル時ハ之ヲ示スヘシ(檢査證トモ)

第二十三條 馭者ハ馭者臺ヲ離ルヘカラス但止ヲ得サル事故アル時

ハ車掌又ハ馬丁ヲシテ馬車ノ看守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼婦女昇降ノ際ハ特ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十六條 馭者臺ニ客ヲ乗セ又ハ屋根ニ物器ヲ載スヘカラス

第二十七條 制止ヲ肯セズシテ出火場其他群集ノ場所ハ馬車ヲ入ル

ハカラス

第二十八條 行人ニ對シ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル時ハ徐行
シ號鐘ヲ鳴ラシ又ハ喇叭ヲ吹キ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ

第三十一條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇
降セシムヘカラス

第三十二條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十三條 馬車客待所外ニ於テ客待ヲ爲スヘカラス

第三十四條 正當ノ理由ナクシテ發車ヲ拒ムヘカラス

第三十五條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十六條 軍隊郵便用消防用ノ車馬撒水車又ハ葬儀等ニ行逢フト
キハ其進行ニ障害ヲ與ヘサル様駐車又ハ避讓スヘシ

第三十七條 軌道ヲ用ヒサル馬車ノ馭者ハ尙ホ左項ノ制限ヲ遵守ス

●乗合馬車營業取締規則

三百七十三

ハシ

- 一 車道ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
 - 二 車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避讓スヘシ
 - 三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
 - 四 前車ニ先キタチ後車進行セントスル時ハ後車ヨリ號鐘ヲ鳴ラシ若シハ喇叭ヲ吹キ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
 - 五 (刪除)
 - 六 街角通行ノ際右折ハ大廻リヲ爲シ左折ハ小廻リヲ爲スヘシ
 - 七 免許ヲ受ケサル線路ニ行車スヘカラス
- 第三十八條 定員外ノ客ヲ載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ員外トス

第三十九條 左ニ記載シタル者ハ載スヘカラス

- 一 六種傳染病其他厭忌スヘキ疾病アル者
- 二 瘋癲者及亂醉者
- 三 惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
- 四 獸類

第四十條 乗車賃錢ハ相當ノ額ヲ定メ警視廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其改定ヲ要スル時亦同シ

本條ノ定額ハ車内ノ見易キ所ニ掲出スヘシ

第四十一條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十三條 馬車控所ヲ新設又ハ改造セントスルトキハ其圖面及仕様書并借地ニ係ルモノハ地主ノ承諾書ヲ添ヘ落成期日ヲ記シ取締ヨリ組合外營業者ノ設置ニ係ルモノハ其營業者ヨリ警視廳ニ願出

●乗合馬車取締規則

二百七十六

免許ヲ受ケ落成ノ上ハ届出検査ヲ請フヘシ其検査ヲ受ケサルモノ
ハ使用スルコトヲ得ス

第四十五條 馬車客待所ノ構造ハ組合ニ於テ之ヲ負擔シ取締ヨリ其
仕様書ヲ添ヘ落成期日ヲ記シ警視廳ニ願出免許ヲ受ケ落成ノ上ハ
届出検査ヲ請フヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス
組合外營業者ノ使用ニ係ル客待所ハ其營業者ニ於テ前項ノ手續ヲ
爲スヘシ

第四十六條 街路ノ狀況ニ依リ馬車客待所ヲ廢シタル時ハ其構造物
ハ前條ノ構造負擔者ニ於テ撤去シ元形ニ復スヘシ
馬車控所ヲ廢シタル時ハ取締又ハ組合外營業者ヨリ三日以内ニ警
視廳ニ届出ヘシ

第四十七條 馬車客待所ニハ警視廳ニ於テ定メタル車數ノ外留メ置
クヘカラス

第五十七條 本則第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十二條
第十三條第十七條第十八條第二十一條第二十二條第二十三條第二
十四條第二十六條第二十七條第二十八條第三十條第三十一條第三
十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第
三十八條第三十九條第四十條第四十二條第四十三條第四十五條第
四十六條及第四十七條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又
ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●乗合馬車營業取締規則中自用馬車ノ馭者ニ適用條項明治二十二年十二
月十二日警察令第
十六號

明治二十二年(十月)警察令第三十號乗合馬車營業取締規則中左ニ
記載ノ各條ハ自用馬車ノ馭者ニ於テモ之ヲ遵守スヘシ犯シタルモ
ノハ同則第九章各條ニ依リ處分ス但第三十七條第四項ノ號鐘喇叭
ヲ用ユル場合ハ掛ケ聲ヲ以テ之ニ代ユヘシ

●乗合馬車營業取締規則中自用馬車ノ馭者ニ適用條項

二百七十七

●人力車營業取締規則

三百七十八

第二十三條 第二十七條 第二十九條 第三十條 第三十二條 第三十五條
第三十六條 第三十七條

●人力車營業取締規則 明治二十二年四月二十六日
警察令第十九號

第四條 人力車營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ族籍住所氏名生年月日ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出車体検査証又ハ免許証ヲ受クヘシ其輓子ヲシテ車ヲ輓カシメントスル者ハ願書ニ輓子ノ族籍住所氏名生年月日ヲ記入シ警察署又ハ警察分署ニ輓子ヲ同伴シテ免許証ヲ受クヘシ

第五條 人力車ノ新造改造及買受讓受ヲ爲シタル時ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出検査証ヲ受ケ且其車體ニ烙印ヲ請フヘシ

第六條 検査証ハ車体蹴込ノ正面ニ釘付スヘシ

第七條 免許証及車体ハ毎年一回(自三月一日
至四月三十日)所轄警察署又ハ警察分署ノ検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ各項ニ係ルモノハ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署

ニ届出免許証及検査証ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 族籍變換轉居改氏名等ニシテ免許証又ハ検査証面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許証又ハ検査証ヲ遺失毀損シ若ハ其文字不分明ニ成タル時

第九條 左ノ各項ニ係ルモノハ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署

ニ届出免許証又ハ検査証ヲ返納シ及車體烙印ノ消除ヲ請フヘシ

一 廢業又ハ廢車シタル時

二 車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 輓子ノ資格ヲ失ヒタル時

四 輓子ヲ解雇シ又ハ輓子ノ失踪若クハ死去シタル時

第十一條 免許証ヲ貸與シ又ハ検査証ヲ轉用スヘカラス

第十四條 車体ノ構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從ヒ堅牢ニ製造スヘシ

●人力車營業取締規則

三百七十九

●人力車營業取締規則

三百八十

但破損又ハ汚染シタルモノハ使用スルコトヲ得ス

- 一 一人乗ハ横幅内法二尺未満二人乗ハ同二尺以上タルヘシ
- 二 車体ハ無地漆塗中張ハ革、天鵞絨、羅紗等ヲ用ユヘシ
- 三 車体ニハ泥除ヲ備フヘシ
- 四 車体ノ蹴込ニ組名ヲ明記スヘシ
- 五 護謨製又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘシ
- 六 蒲團膝掛及提灯ヲ備フヘシ但提灯ニハ組名ヲ記スヘシ

第十七條 就業中ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ但破損又ハ汚染シタルモノハ着用スルコトヲ得ス

- 一 着服ハ紺色ノ法被股引但雨雪泥濘并炎暑ノ時ハ半股引(膝ノ上モノ)ヲ用ユルモ妨ケナシ
- 二 冠リ物ハ大黒帽子又ハ饅頭笠
- 三 雨具ハ護謨又ハ桐油其他絨類製

第十八條 就業中ハ免許證及賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見シコトヲ求ムル時ハ之ヲ示スヘシ

第十九條 停車場外ニ客待ヲ爲シ又ハ路上ニ空車ヲ輓キ彷徨行立スヘカラス

第二十條 乗客ノ求メナキ場所ニ輓キ入レ又ハ途中ニ於テ故ナク下車ヲ請フヘカラス

第二十一條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集ノ場所ハ輓キ入ルヘカラス

第二十二條 行人ニ對シ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十三條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十四條 車二輛以上連續進行スル時ハ前車ト後車トノ間六尺以上ノ距離ヲ取ルヘシ

●人力車營業取締規則

三百八十二

第二十五條 車道ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

第二十六條 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第二十七條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第二十八條 前車ニ先キタチ後車進行セントスル時ハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第二十九條 軍隊郵便用消防用ノ車馬撤水車又ハ葬儀等ニ行逢フ時ハ其進行ニ障害ヲ與ヘサル様駐車又ハ避讓スヘシ

第三十條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行スヘシ

第三十一條 街角通行ノ際右折セントスル時ハ大廻リヲ爲シ左折セントスル時ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十二條 車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十三條 停車場ニ於テ客待ノ場合ヲ除クノ外夜中ハ燈火ヲ點スヘシ

第三十四條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十五條 乘客降車ノ後チ若シ遺留品アル時ハ最寄警察署警察分署巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第三十六條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ員外トス

第三十七條 左ニ記載シタル者ハ乘載スヘカラス

一 六種傳染病者

二 車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ遺留スヘキ物品

三 車体外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第三十八條 乘車賃錢ハ各組合取締ニ於テ協議ノ上同一ノ額ヲ定メ

所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出認可ヲ受クヘシ但其
改定ヲ要スル時亦同シ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ約束外ノ金錢ヲ請
求スヘカラス

第五十條 本則第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十一條第
十四條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條
第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九
條第三十條第三十一條及第三十二條第三十三條第三十四條第三十
六條第三十七條第三十八條及第三十九條ヲ犯シタル者ハ一日以上
三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
●人力車營業取締規則中自用人力車輓夫ニ適用條項 明治廿二年九月十八
日警察令第二十七號
明治二十二年(四月)警察令第十九號人力車營業取締規則中左ニ記
載ノ條項ハ自用人力車輓夫ニ於テモ之ヲ遵守スヘシ犯シタルモノ

ハ同則第九章各條ニ依リ處分ス

第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條
第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第
三十四條第三十六條第三十七條第三項

●荷車取締規則 明治二十四年一月二十一日
警察令第一號

第二條 諸車ニハ其所有主ノ住所氏名ヲ車体ノ見易キ場所ニ明記ス
ヘシ

第三條 傳染病及狂躁病其他盲病外傷アル牛馬ヲシテ荷車ヲ輓カシ
ムヘカラス

第四條 積荷ハ車臺ヨリ高サ六尺以上ニ積載スヘカラス但樹木其他
分割スヘカラサルモノ並蕪秣等ノ如キ輕量ニシテ危害ノ虞ナキ
モノニ係ルハ此限ニアラス

第五條 積荷ハ荷臺ノ左右車輪ヨリ五寸以外ニ突出スヘカラス

●荷車取締規則

第六條 粉類ハ飛散セサル様装置ヲ爲シ末口ノ尖リタル物件ハ末口ヲ纏束シ又ハ包裹スヘシ

第七條 荷車ニ臺以上ヲ連繫シ巨大ノ物品ヲ運送セントスル者ハ物品所在地所轄ノ警察署ニ書面又ハ口頭ヲ以テ届出認可ヲ受ケ左ノ章標ヲ付スヘシ

警察署 届濟

第八條 牛車並第七條ニ掲クル荷車ハ幅員三間以下ノ道路ヲ通行スヘカラス但積荷發着場並常置場ニ係ルハ此限ニアラス

第九條 通行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ車ヲ横タヘ又ハ駐止シ或ハ荷物ヲ積ミ卸シ若クハ牛馬ニ嚙飲セシムヘカラス

第十條 荷車ヲ并ハ輓キ又ハ濫リニ疾行シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

ヲス

第十一條 荷車二輛以上連續進行スルトキハ前車ト後車トノ間二間以上ノ距離ヲ取ルヘシ

第十二條 牛馬車ニシテ一時路傍ニ停車スルトキハ牛馬ノ奔逸セサル様繋留スヘシ

第十三條 牛馬ノ口綱ハ三尺以外ニ執ルヘカラス

第十四條 制止ヲ肯ンセシテ出火場其他群集ノ場所ニ車ヲ輓入ルヘカラス

第十五條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第十六條 牛馬ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第十七條 車道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

第十八條 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ軍隊并輜重車ニ行逢フ

●荷車取締規則

トキハ右ニ避讓スヘシ

第十九條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第二十條 前車ニ先テ後車進行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲ヲナシ(荷車ニ在テハ號鐘)前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ(喇叭ヲ用ユルヲ得)

第二十一條 郵便用消防用ノ馬車及撒水車又ハ葬儀ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第二十二條 街角通行ノ際右折ハ大廻リヲナシ左折ハ小廻リヲナスヘシ

第二十三條 荷馬車ノ馭者ニ在テハ尙ホ左項ノ制限ヲ遵守スヘシ
一 馭者ハ馭者臺ヲ離ルヘカラス但已ムヲ得サル事故アルトキハ車掌又ハ馬丁ヲシテ馬車ノ看守ヲ爲サシムヘシ
二 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スルトキハ徐行シ

號鐘喇叭ヲ用ヒ又ハ掛聲ヲ爲スヘシ

第二十四條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 本則中刑法ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ
第十二類 諸標

●陸地測量標條例明治二十三年三月二十六日 法律第二十三號

第十條 標石ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 規標及ヒ標杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●陸地測量標條例

第十二條 測旗及び假抗ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲テ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●陸地測量標條例施行細則明治二十八年八月十五日 陸軍省令第十七號

第十六條 標石敷地内ニ土砂塵埃其他雜物等ヲ堆積スルヲ許サス

第二十二條 標石規標ハ陸地測量部ノ認可ヲ得ルニ非レハ使用スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ得ントスル者ハ豫メ使用ノ日數及其事由ヲ詳記シ陸地測量部ニ申請スヘシ

第二十三條 標石使用ノ爲メ新ニ要スル標旗標杭其他規標等ハ標石ヲ離ル、コト二尺以内ノ地ニ建設スルヲ許サス

第二十五條 標石規標標杭ノ周圍ニ於テ之ヲ毀損スルノ虞アルカ又ハ其效用ヲ妨グヘキ事業ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シ設計圖ヲ添ヘ其移轉ヲ道廳府縣廳ニ請求スヘシ

第三十一條 本則第十六條第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ犯シタル者ハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

●水路測量標條例明治二十三年五月二十六日 法律第三十八號

第五條 基點標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 測標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲テ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シ

●航路標識條例 ●測量標取締方

三百九十二

タル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●航路標識條例 明治二十一年十月十一日勅令第六十七號

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ

又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●測量標取締方 明治二十七年七月七日警視廳令第三十八號

河海又ハ陸地ニ建設セル諸測量標其他榜標及土木用ノ爲メニ建設セル標識等ヲ毀棄移轉又ハ汚損スヘカラス犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス但法律

規則ニ別段ノ規定アルモノハ各其規定ニ從フ

第十三類 風俗

●富籤賣買ニ關スル件 明治十五年五月二十四日布告第二十五號

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未ダ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

●富籤賣買ニ關スル件

三百九十五

●富籤類似ノ行爲取締方

三百九十四

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス
自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

●富籤類似ノ行爲取締方 明治二十七年一月二十七日
警視廳令第二號

商業者ニ於テ抽籤若クハ投票又ハ當物等ヲ以テ富籤類似ノ行爲ヲナスヘカラス若シ之ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●貸座敷引手茶屋娼妓取締規則 明治二十二年三月二十七日
警察令第十二號

第三條 吉原及洲崎ニ於テ貸座敷ヲ新規開業シ又ハ讓受開業セントスル者ハ族籍住所氏名年齢及樓名屋號ヲ定メ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ願出認許ヲ受クヘシ但讓受ノ願書ニハ讓渡人ノ連署ヲ要ス

第五條 貸座敷引手茶屋ニシテ族籍住所氏名樓名屋號ヲ變換シ及廢

業休業若クハ就業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第六條 娼妓稼ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ願出認可ヲ受クヘシ但十六歳未滿ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス

一 父母若シ父母在ラサルトキハ最近親族ノ承諾書

二 原籍市町村役場ノ戶籍并父母親族印鑑ノ證明書

三 従前ノ經歷

四 貸座敷主トノ結約書

五 妓名揚代金

六 稼業年限

七 檢儼醫ノ與ヘタル健康證書

第七條 娼妓ニシテ族籍氏名妓名及揚代金ヲ變換シ又ハ轉寓廢業休業若クハ就業シタルトキハ第五條ノ例ニ從フヘシ

●貸座敷引手茶屋娼妓取締規則

三百九十五

第十三條 貸座敷引手茶屋娼妓ハ一區域毎ニ協議ノ上規約ヲ設ケ所轄警察署ヲ經テ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ其改正ノトキ亦同シ但規約ニ入ラサル者ハ其業ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 貸座敷引手茶屋娼妓ニ在テ警察署ヨリ取締上別段ノ命令アルトキハ之ヲ遵守スヘシ

第十五條 貸座敷引手茶屋娼妓ニ於テ雇人ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ其族籍氏名年齢ヲ詳記シ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十八條 貸座敷引手茶屋ハ二戸以上合併シテ其業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 貸座敷引手茶屋ハ甲乙二冊ノ帳簿ヲ製シ甲帳ニハ揚リ高乙帳ニハ遊客ノ住所氏名年齢容貌衣服ノ品類等ヲ詳記スヘシ但其帳簿ハ使用後五年間保存スヘシ

第二十二條 遊客ニ面會ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
第二十三條 學校ノ徽章ヲ着ケタル生徒并ニ十六歳未満ノ者ハ遊興

セシムヘカラス

第二十四條 店頭若クハ往來ニ人ヲ出シ或ハ自カラ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ車夫其他ノ者ト謀リ人ヲ誘引シ或ハ廣告ヲ爲シ遊興ヲ勸誘スル等ノコトアルヘカラス

第二十五條 客ノ需メサル酒食其他ノ物品ヲ出シ又ハ強ニル等ノコトアルヘカラス

第二十六條 遊興費ノ抵償トシテ客ノ着服其他ノ物品ヲ受取ルヘカラス若シ已ヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ所轄警察署ニ同伴シテ承認ヲ受クヘシ

第二十七條 花卉ヲ植エ俄踊ヲ演シ燈籠ヲ掲クル等總テ街路ニ係ル舉行ハ豫メ其仕法ヲ詳記シ所轄警察署ニ願出認許ヲ受クヘシ但品川新宿千任板橋ハ認許スルノ限リニアラス

第二十八條 吉原及洲崎ヲ除クノ外粧飾シタル娼妓ヲ通行人ノ目

ニ觸レシムヘカラス

第二十九條 娼妓ヲ遇スルニハ誠實ヲ旨トシ且カメテ正業ニ復セシムル様注意シ贅費ヲ爲サシムヘカラス

第三十條 貸座敷主ハ取締規則ニ平假名ヲ附シ娼妓ノ見易キ所ニ掲ケ置ヘシ

第三十一條 娼妓本則ニ背キ又ハ規約等ニ違フトキハ所轄警察署ニ届出其處分ヲ請ヒ貸座敷主ニ於テ私ニ矯正ノ處置ヲ爲スヘカラス

第三十二條 娼妓轉寓廢業休業又ハ他出セントスルトキハ正當ノ理由ナクシテ故障スヘカラス

第三十三條 娼妓疾病アルキハ速ニ醫師ヲ招キ診療ヲ受ケシムヘシ

第三十四條 娼妓ハ祖父母父母伯叔父母兄弟姉妹ノ吉凶又ハ看病或ハ父母ノ墓參ノ外戶外ニ出スヘカラス但吉原及洲崎ハ区域内ニ限リ戶外ニ出ヌトヲ得

第三十五條 娼妓逃亡又ハ立戻リタルトキハ貸座敷主ニ於テ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三十六條 貸座敷主又ハ引手茶屋主ニシテ一週日以上旅行セントスルトキハ相當ノ代理人ヲ置キ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三十七條 引手茶屋ハ遊客及娼妓ヲ宿泊セシムヘカラス

第四十條 娼妓ハ貸座敷内ニ寄寓スヘシ若シ其寓居ヲ轉換セントスルトキハ雙方ノ貸座敷主連署ヲ以テ寄寓スヘキ貸座敷所轄ノ警察署ヘ願出認許ヲ受クヘシ

第四十二條 黷毒ニアラサル病ニ罹リ貸座敷内ニ於テ治療シ難キトキハ其事由ヲ詳記シ且醫師ノ診斷書ヲ添ヘ貸座敷主連署ヲ以テ所轄警察署ニ願出認許ヲ受クヘシ

第四十四條 祖父母父母伯叔父母兄弟姉妹ノ吉凶又ハ看病或ハ父母ノ墓參ノ外戶外ニ出ルコトヲ得ス但吉原及洲崎ハ区域内ニ限リ戶

外ニ出ルコトヲ得

前項外出ヲ爲ストキハ貸座敷主ヲ經テ取締ノ承認ヲ得常人ノ服裝ヲナシ貸座敷ノ附添人ト同伴スヘシ

第四十五條 本則第三條第六條第十四條第十八條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十八條第二十九條第三十一條第三十二條第三十三條第三十七條ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 本則第五條第七條第十三條第二十七條第三十四條第四十條第四十二條第四十四條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第四十七條 本則第十五條第三十五條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十八條 本則第三十條第三十六條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第四十九條 本則第四十五條ニ依リ處分セラレタル者ハ情狀ニ依リ本業ヲ停止若クハ禁止ス

●演藝公開者取締方明治二十四年十二月二十一日警察令第二十二號

名義方法ノ何タルヲ問ハス演藝ヲ公開セントスル者ハ劇場寄席觀物場ニ於テ各其取締規則ヲ遵守スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

慈惠金醜集ノ爲メ興行スル者ハ他ノ建物内ト雖モ構造堅牢客席備具シタリト認ムルモノニ限り左ノ規定ニ從ヒ特ニ認可スルコトヲ得ルハシ

一 演藝興行ノ場所及開會ノ趣旨目的贈與ノ方法並收支ノ豫算ヲ具シ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ願出ハシ

●演藝公開者取締方

●郡部演劇興行取締方

四百一

- 二 特ニ認可ヲ受ケタル場所ニ於テ興行スルモノハ其日數三日以
内ニ限ルヘシ
 - 三 興行ヲ終リタルトキハ收支決算書及贈與請取書ノ寫ヲ添ヘ五
日以内ニ第一項ノ手續ニ依リ届出ヘシ但期限内ニ請取書ヲ添
付シ難キ事情アルトキハ其事由ヲ付記スヘシ
- 本令ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓ニ
十五錢以下ノ科料ニ處ス

●郡部演劇興行取締方

明治二十七年三月三十一日
警視廳令第二十號

- 郡部ニ在テ劇場寄席外ニ於テ演劇又ハ演藝(講談、落語、淨、
爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願
出免許ヲ受クヘシ但興行期限ハ五日ヲ超ユルコトヲ得ス其演劇ニ
係ルモノハ三日以前ニ脚本ヲ差出シ検査ヲ受クヘシ
- 一 場所ノ地名番號及ヒ圖面(興行場ヲ假設スルトキハ)
構造仕樣書ヲ添付スヘシ

二 入場定員興行期限及ヒ時間

三 興行ノ種目

本令ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處
ス

●待合茶屋遊船宿賃席料理屋飲食店及藝妓屋ニ關スル取締規則

明治二十八年四月一日
警視廳令第八號

第一條 左ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所職業氏名年齢屋號及
營業ノ場所ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ願出
免許ヲ受クヘシ其營業ノ場所ヲ轉スルトキ亦同シ

一 待合茶屋遊船宿賃席料理屋

二 銘酒喫茶麥湯氷水其他客席ノ設ケアル飲食店

三 藝妓屋

第三條 營業者族籍住所氏名屋號ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキ

●待合茶屋遊船宿賃席料理屋飲食店及藝妓屋ニ關スル取締規則

四百三

●遊技場取締規則

四百四

ハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ
第四條 營業者雇人ヲ雇入レ藝妓ヲ寄寓セシムルトキハ其住所氏名
年齢藝名并前住所職業ヲ詳記シ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分
署ニ届出ヘシ其事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但郡部ハ巡查派
出所又ハ巡查駐在所ニ其届書ヲ差出スコトヲ得

第五條 本則第一條第三條第四條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下
ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●遊技場取締規則 明治二十三年五月十二日
警察令第十一號

第三條 遊技場ヲ開設セントスルモノハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察
署又ハ警察分署ニ願出免許ヲ受クヘシ其改造變更ヲ要スルトキ亦
同シ

一 構造ノ制限アルモノハ其仕様書及圖面

二 遊技ノ方法

前項ノ構造落成シタルトキ又ハ遊技ノ方法ヲ變更セントスルトキ
ハ開場前所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ但構造落成ノ場合ハ
検査ヲ受クヘシ

第四條 構造ノ制限アル遊技場ニシテ破損シタルトキハ速ニ修理ヲ
加フヘシ但著手落成共所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受ク
ヘシ

第六條 族籍住所氏名又ハ屋號ヲ變更シ若シクハ廢場シタルトキハ
五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第七條 遊技場ニハ其名稱及住所氏名ヲ記シタル看板(壁三尺
幅七寸)ヲ表出
シ夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第八條 開場時間ハ日出ヨリ午後第十一時ヲ限リトス

第九條 遊技ニ於テ婦女ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其年月日住
所氏名年齢従前ノ職業及前雇主ノ住所氏名等ヲ詳記シ二十四時以

●遊技場取締規則

四百五

内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十條 白痴瘋癲者及亂醉者ニハ射擊等ヲ爲サシムヘカラス

第十一條 遊技料ハ場内見易キ所ニ揭示スヘシ

第十二條 名稱方法ノ何タルヲ問ハス抽籤又ハ符合等ヲ用ヒ物品ヲ與フル所業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス但技術ノ優劣ニ依リ單ニ景物ヲ出スハ此限ニアラス

第十三條 言語動作ヲ以テ通行人ヲ招キ若クハ強テ遊客ニ遊技ヲ勸メ又ハ遊客ヲ宿泊セシムヘカラス

第十四條 破損シタル弓銃等ハ使用ヲ爲サシムヘカラス

第十五條 銃器雷管等ハ銃砲及火藥取締規則ニ從ヒ取扱フヘシ但雷管等ハ一切場外ヘ携持セシムヘカラス

第十六條 道路ニ面スル遊技場ニ在テハ路上ヨリ遊技ヲ爲サシムヘカラス

第二十條 本則第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條第十

一條第十二條第十三條第十四條及第十五條但書第十六條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓二拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●觀物場取締規則 明治二十四年十月三日 警察令第十五號

第四條 路上觀物ハ神佛祭典縁日等ノ際從前ノ慣行アル場所ノ外開設スルコトヲ許サス

第五條 路上觀物興行ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢並路上觀物興行人タルコトヲ記シタル木札(豎五寸 横三寸)ヲ製シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出烙印ヲ受クヘシ

木札ハ他人ニ貸與スヘカラス興行中之ヲ顯帶スヘシ

第六條 木札ヲ遺失毀損シ又ハ族籍住所氏名ニ異動ヲ生シ若クハ廢業シタルトキハ其旨届出烙印又ハ消印ヲ受クヘシ

第七條 觀物場ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ常設場ハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ假設場ハ本則第十七條ノ事項ヲ併記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免許ヲ受クヘシ但改造變更ヲ要スルトキ亦同シ此場合ニ於テハ其必要事項ノ外記載ヲ要セス

一 建設場ノ地名番號圖面構造仕様書及落成期日

二 四隣ノ略圖

三 觀客定員

一般ノ家屋ヲ代用セントスルトキハ願書ニ其建物ノ圖面ヲ添フヘシ

第八條 第七條ノ構造落成シタルトキハ左ノ規定ニ從フヘシ但第二項ノ觀物場ニシテ一般ノ家屋ヲ代用シタルモノ、外興行滿期ノ翌日ヨリ七日以内ニ取拂フヘシ

一 常設場ニ在テハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出検査ヲ請ヒ其證ヲ受クヘシ検査證ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

二 假設場ニ在テハ所轄警察署ニ届出検査ヲ受クヘシ検査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第十條 検査證面ニ異動ヲ生シ又ハ遺失毀損シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出其書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但廢場シタルキハ本文ノ手續ニヨリ検査證ヲ返納スヘシ

第十五條 路上觀物場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 觀物場ノ周圍ハ綿布類ヲ以テ之ヲ圍繞スルノ外板又ハ葎簀類ヲ使用スヘカラス
- 二 道路ノ幅員三間以上ノ場所ニ在テハ片側ニ限リ開設スルコトヲ得
- 三 三ヲ得

- 三 使用區域ハ下水際ヨリ起算シ幅員五間以内ノ道路ニ在テハ出幅一間又五間以上ハ出幅一間三尺以内ニ限ルヘシ
- 四 人道車馬道ノ區別アル場所ニシテ幅員二間以上ノ人道ニ在テハ車馬道際ヨリ出幅五尺以内ニ限ルヘシ
- 五 他ノ觀物場又ハ露店等ノ間ハ適宜ノ距離ヲ取ルヘシ
- 六 人ノ家屋前ニ係ルトキハ其居住人ノ承諾ヲ要スヘシ
- 七 地盤ノ掘鑿シタルトキハ終業ノトキ原形ニ復スヘシ但敷石敲等別段ノ構造アルモノハ掘鑿スヘカラス
- 八 興行ヲ終リタルトキハ直ニ其構造ヲ撤却スヘシ
- 第十七條 觀物興行ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免許ヲ受クヘシ但假設場ニ係ル興行期限ハ六十日以内トス
- 一 場所地名番號並觀覽物ノ種類及其方法(番附引札等アルモノハ添付スヘシ)

二 興行期限及時間

三 觀覽料及席料

外國人ヲ雇入レ興行ヲ爲サントスル者ハ前項規定ノ外成規ノ雇入届書ノ寫ヲ添フヘシ

第十八條 猛惡ノ動物類ハ其柵欄及繫鎖ヲ堅牢ニ爲シ危害ヲ豫防スヘシ

第十九條 猥褻ノ物品技藝其他風俗ニ害アルモノヲ觀覽ニ供スヘカラス

第二十條 鷲又ハ大道具類ヲ使用シ演劇類似ノ所作ヲ爲スヘカラス

第二十一條 藝人ノ休息所ニ客ヲ入レ若クハ藝人ヲ客席ニ入ラシムヘカラス

第二十二條 何等ノ名義ニ拘ハラズ抽籤等ヲ以テ客ニ物品ヲ與ズルノ所爲ヲナスヘカラス

第二十三條 觀覽物ト相違シタル看板ヲ揭示スヘカラス

第二十四條 觀覽料其他請求スヘキ金額ハ觀客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第二十五條 通行人ニ對シ強テ觀覽ヲ勸メ又ハ定額外ノ金錢ヲ請求シ其他觀客ノ求メサル物品ヲ出スヘカラス

第二十六條 興行時間ハ特ニ制限スル場所ノ外日出ヨリ午後第十一時ヲ限リトス

第二十七條 場内其他便所等ハ時々掃除ヲ爲シ且夏季ニ在テハ便所ニ防臭劑ヲ撒布スヘシ

第二十九條 前月中ノ興行日數及觀客人員ヲ取調ヘ翌月五日迄ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

第三十條 本則第四條第五條第六條第七條第八條第十條第十五條第十七條第十八條第十九條(輕罪ニ當ル場合ハ除ク)第二十條第二十一條第二十二

條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十九條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ一日ノ拘留又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

●寄席取締規則 明治二十三年八月十五日 警察令第十五號

第二條 寄席ヲ建設セントスルモノハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其改造變更ヲ要スルトキ亦同シ

一 土地建物ノ圖面構造ノ仕様書及落成期日

二 道路及空地ノ幅員

三 演藝ノ種別講談下色物トノ種別及晝夜ノ區別

第五條 族籍住所氏名ニ異動ヲ生シ又ハ廢席ヲ爲シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

寄席ヲ賣買讓與セントスルトキハ双方連署ヲ以テ前項ノ手續ニ依

●寄席取締規則

リ願出免許ヲ受クヘシ

四百十四

第六條 左ノ事項ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但外國人ヲシテ
演藝セシムルトキハ雇入届書ノ寫ヲ添フヘシ
一 演藝ヲ爲サントスルトキハ前日迄ニ其種類日限時間及藝人ノ
住所氏名

二 休席セントスルトキハ其日限但十五日以内ニ係ルトキハ口頭
又ハ郵便ヲ以テスルモ妨ケナシ

第七條

興行時間ハ日出ヨリ午後十一時限リトス

第八條 藝人ノ休息所ニ客ヲ入レ若シクハ藝人ヲ客席ニ入ラシムヘ
カラス

第九條 何等ノ名義ニ拘ラス抽籤等ヲ以テ客ニ物品ヲ與フルノ所爲
ヲナスヘカラス

第十條 妄リニ時事ヲ諷刺シ又ハ猥褻其他風俗ヲ紊ル演藝ヲ爲スヘ

カラス

大道具ヲ用シ鬘裝束ヲ著ケ演劇類似ノ所作ヲ爲スヘカラス

第十一條 寄席内ニ於テ袒裼裸體ヲ爲シ又ハ放談講話其他喧噪ニ涉
リ他ノ妨害ヲ爲サシムヘカラス

開キ席ハ客ヲシテ路上ヨリ聽覽ヲ爲サシムヘカラス

第十二條 演藝中ハ木戸ヲ開放シ且席内其他便所等ハ毎日掃除ヲ爲
シ且夏季ニ至テハ便所ニ防臭劑ヲ散布スヘシ

第十三條 客席ノ定員及席料ハ見易キ場所ニ揭示スヘシ其定員ハ一
坪九人以下ノ割合トス

第十五條 前月中ノ興行日數及來客人員ハ晝夜興行ノ區別ニ依リ取
調翌月三日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但開キ席ハ此限ニ
アラス

第十七條 本則第二條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十

●寄席取締規則

四百十五

●宿屋營業取締規則

四百十六

一條第十二條第十三條第十五條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニヨリ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

但第九條第十條ノ違犯ヲ知リテ制セサル席主ハ罰本人ニ同シ

○宿屋營業取締規則 明治二十八年三月十二日
警視廳令第二號

- 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其營業家屋ニ大修繕ヲ加ヘ若クハ第二號第三號第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但客室ノ變更及小修繕ニ止マルモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免許ヲ受クヘシ
- 一 族籍住所氏名年齢并屋號アルモノハ其屋號
 - 二 業營ノ種類及營業ノ場所
 - 三 營業用家屋ノ構造及其圖面并客室ノ坪數

四 落成期限

第六條 第二條ノ免許ヲ得タル後構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ検査済ノ認證ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 族籍住所氏名屋號ニ異動ヲ生シ又ハ休業廢業若クハ後見人ヲ變換シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

第十條 雇人ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ記シ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ但雇入届ニハ前雇主ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

前項ノ届書ハ郡部ニシテ市街地(品川町内藤新宿町南千住町千代田板橋町小松町五日市町以)以外ノ土地ニ在テハ巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ差出スコトヲ得

●宿屋營業取締規則

四百十七

第十一條 宿屋營業者ハ營業ノ種類住所屋號氏名ヲ明記シタル看板

ヲ店頭又ハ門戶ニ掲出スヘシ但夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第十二條 宿屋營業者ハ宿泊料ノ額ヲ定メ帳場及客室ニ揭示スヘシ

宿屋營業者ハ正當ノ事由ナクシテ宿泊ノ求ヲ拒絕スヘカラス

第十三條 宿泊人ノ求メサル飲食物ヲ供シテ宿泊料以外ノ金錢ヲ請

求シ又ハ遊興ヲ勸メ金錢ヲ浪費セシムヘカラス

第十四條 宿屋ニ於テハ藝妓ヲ招致スヘカラス

第十五條 宿引ヲ出シ又ハ其他ノ手段ヲ以テ客ヲ誘引スヘカラス

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ノ所持品ヲ受取ラントスル場

合ニ於テハ警察官吏ノ立會ヲ請フヘシ

第十七條 宿泊人ノ承認ナクシテ他人ヲ濫リニ室内ニ入ラシムヘカ

ラス

第十八條 宿泊人疾病ニ罹リタルキハ醫藥食物等其需ニ應シ懇切ニ

取扱フヘシ

第十九條 宿泊人變死傷又ハ其所持品紛失シタルトキハ速ニ所轄警

察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第二十二條 客室ノ境界ハ壁若クハ襖板戸ヲ用非且室内ニハ堅固ノ

錠前ヲ附シタル押入又ハ戸棚ヲ設クヘシ但錠前ハ各其鍵ヲ異ニス

ヘシ

第二十四條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ各二個以上ヲ設ケ日

々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十五條 客室ニハ每室ノ入口ニ番號ヲ標記スヘシ

第二十六條 客室ノ割合ハ一人ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス但同伴者

ハ此限ニアラス

第二十七條 双方ノ承諾ナキ者又ハ同伴者ニアラサル男女ヲ同室ニ

宿泊セシムヘカラス

第二十八條 族人宿營業者ハ第一號様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ製シ其紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ノ檢印ヲ受クヘシ但該名簿ハ使用終リタル後一箇年間保存スヘシ

第二十九條 宿泊人名簿ハ餘白ヲ置カス順次記入シ若シ誤寫等アルモ其紙葉ヲ除却スヘカラス

宿泊人ノ族籍住所職業氏名年齢ハ其本人ヲシテ自書セシムヘシ若シ自書シ能ハサルトキハ代書スルモ妨ケナシ
軍隊學校生徒ノ如キ多數一團ノ宿泊者アルトキハ其引率者ノミヲ記シ其他ハ外何名ト記スルモ妨ケナシ

第三十條 宿泊人ノ發着ハ正午十二時及午後十二時迄ノ二回ニ第二號第三號様式ニ從ヒ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ但郡部ニシテ巡查派出所又ハ巡查駐在所アラサル地ニ於テハ巡回ノ警察官吏ニ届出ルコトヲ得

第三十二條 本則第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條ハ下宿營業者ニモ之ヲ適用ス但第二十三條ノ階子幅員ハ三尺ニ減シ第二十四條ノ便所ハ客室ノ坪數十坪以下ノモノハ各一個ニ減スルコトヲ得

第三十三條 下宿轉宿又ハ出發シタル者アルトキハ二十四時内ニ第四號様式ニ從ヒ正副二通ノ届書ヲ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ差出シ一通ニ檢印ヲ受ケ之ヲ編綴保存スヘシ但郡部ニシテ巡查派出所又ハ巡查駐在所アラサル地ニ於テハ巡回ノ警察官吏ニ差出スコトヲ得

第三十四條 下宿營業者ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ明記シ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第三十五條 下宿人外泊三日ニ及ヒ其所在不分明ナルトキハ二十四時内ニ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

シ但郡部ニシテ巡查派出所又ハ巡查駐在所アラサル地ニ於テハ巡回ノ警察官吏ニ届出ルコトヲ得

第三十八條 客室及便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第三十九條 本則第二十八條及第二十九條ハ木賃宿營業者ニモ之ヲ適用ス但滞在ノ者外泊シタルトキハ其旨ヲ宿泊人名簿ニ記載シ置クヘシ

木賃宿營業者ハ第五號様式ニ依リ宿泊人員ヲ一箇月分取纏メ翌月五日迄ニ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第四十條 本則第二條第六條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十二條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十三條第三十四條第三十五條第三十八條第三十九條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十鎊以上一圓二十五鎊以下ノ科料ニ處ス

第九條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十鎊以上一圓二十五鎊以下ノ科料ニ處ス

第一號様式(用美濃紙)

九條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十鎊以上一圓二十五鎊以下ノ科料ニ處ス

相鏡ノ特徵其 他事故	出發到警前夜		行先地	族籍	住所	職業	氏名 年齢
	月日時	月日時					
總計							
宿泊人							

●宿屋營業取締規則 四百二十三

第二號樣式(用紙紙)

相貌、特徵其他ノ事故	投宿日時	行先地	前夜宿泊所	職業	年	住	族	氏	明治何年
								名	何月何日
									投宿届
									何區何郡何町村何番地
									屋號氏名印

第三號樣式(用紙紙)

出發日時	氏名	明治何年
		何月何日
		何區何郡何町村何番地
		屋號氏名印

●宿屋營業取締規則

第四號樣式(用紙)

下宿
出轉宿屆

族籍住所職業

氏名

年 齡

何々ニ付何月何日ヨリ下宿
又ハ何月何日(轉宿)

右及御届候也

年月日

何區郡何町村何番地

下宿營業人 氏名 印

何警察(分)署 御中

第五號樣式(用紙)

明治何年何月何日	計		男		女		男		女		男		女		男		女		未賃宿宿泊人員届	着	發	月末現員
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
何區郡何町村何番地																						
何警察(分)署 御中																						

●宿屋營業取締規則

●雇人口入營業取締規則

四百二十八

●雇人口入營業取締規則 明治二十四年六月二十七日
警察令第十一號

第三條 雇人口入營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 轉居改氏名又ハ廢業ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ但他ノ警察署管内ニ移轉シタルトキハ其届書ニ前住地警察署ノ檢印ヲ受ケ移轉地ノ警察署ニ差出スヘシ

第五條 業務辨理ノ爲メ手代又ハ雇人ヲ使用スル營業者ニシテ其雇入レ又ハ解雇ヲ爲シタルトキハ住所氏名年齢ヲ記シ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ但第二條第三項第四項ニ觸ル、者ハ使用スルコトヲ得ス

第六條 營業者ハ左ニ掲クル者ノ口入ヲ爲スヘカラス

- 一 未成年ニシテ親族若クハ後見人ノ承諾ナキ者
- 二 婦ニシテ夫ノ承諾ナキ者

三 身元引受人ナキ者

第七條 營業者ニ於テ給金ノ多寡ヲ定メ双方ニ勸誘スル等ノコトヲ爲スヘカラス

第八條 街路公園及船車發着ノ場所又ハ各家ニ人ヲ出シ或ハ自ラ出テ雇人タルヘキ者ノ手引ヲ爲スヘカラス雇期中ノ者又ハ被雇ノ意ナキ者ヲ勸誘シテ他ニ口入ヲ爲スヘカラス

第九條 雇人口入手数料ハ雇主及雇人ヨリ受取ルヘキ額ヲ定メ店內見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十條 手数料ハ雇給額十分ノ一以内トシ雇主及雇人ノ双方ヨリ領收スヘシ若シ雇期中解雇アリタルトキハ其給額ニ割合手数料ヲ精算シ雇主及雇人ニ返却スヘシ但其手数料三十錢ニ滿タサルトキハ本文ノ割合ニ係ハラス雇主及雇人ヨリ三十錢領收スルコトヲ得前項ノ手数料ハ雇契約累年ニ涉ルモ一ヶ年分ヲ超過スルコトヲ得ス

●雇人口入營業取締規則

四百二十九

第十一條 營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ手数料ノ外報酬ヲ受ク
ヘカラス

第十二條 營業者ハ口入スヘキ雇人ヲ宿泊セシムヘカラス但シ寄子
(米肴、湯屋男、麵類職、杜氏、粉挽、
妓夫、料理人、張物職、紐屋職、等ノ類)ヲ宿泊セシムルハ此限リニアラス
寄子ヲ宿泊セシムルトキハ族籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察署ニ
届出ハシ但轉宿シタル者アルトキ亦同シ

第十四條 業務ヲ辨理セシムル手代又ハ雇人ニハ第一號様式ニ從ヒ
木札ヲ製シ之ヲ顯帶セシムヘシ

第十五條 營業者ハ雇主囑託簿及雇人口入簿ヲ製シ第二號第三號様
式(略)ニ從ヒ記入スヘシ但其帳簿ハ新調ノトキ紙數ヲ記シ所轄警
察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第十七條 本則第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十
條第十一條第十二條第十四條第十五條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百

二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢
以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●湯屋取締規則 明治二十三年一月十七日
警察令第一號

第一條 營業用ニ供スル浴場ヲ建設セントスル者ハ其場ノ圖面構造
仕様書及ヒ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視
廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其改造又ハ變換ヲ要スルトキ亦同シ

- 一 四隣及最近同業者ノ距離
- 二 浴湯及燃料ノ種質
- 三 鑛泉及湯花等ヲ用フルモノハ湯元ノ証明書藥湯ハ藥劑免許証
ノ寫

四 落成期日

第三條 第一條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ
經テ警視廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査済ノ認証ヲ受クルニアラサ

レハ使用スルコトヲ得ス

第五條 族籍住所氏名ニ異動ヲ生シ又ハ休業廢業若クハ後見人ヲ變換シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

第六條 湯質ヲ變更(鑛泉藥湯等ニ係ル)シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

第七條 店頭ニハ浴湯ノ種質及ヒ營業者ノ住所氏名ヲ記シタル看板(堅三尺巾七寸)ヲ出シ且夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第八條 湯錢ハ場内見易キ所ニ揭示スヘシ

第九條 前日用ヒタル湯水又ハ汚水ヲ浴用ニ供スヘカラス

第十條 男女混浴セシムヘカラス但七歳未滿ノ小兒ハ此限リニアラス

第十一條 浴客ノ衣類及携帶品ハ看守ヲ爲スヘシ若シ遺留又ハ取換

品アルトキハ浴客ノ見易キ場所ニ其品名ヲ揭示スヘシ

第十二條 營業時間ハ日出ヨリ午後第十一時マテヲ限リトス但烈風ノ節ハ時間ニ拘ラス焚火ヲ停止スヘシ

第十三條 木拾人ヲ出スヘカラス

第十四條 消炭及灰ハ二十四時間ヲ經過シ火氣消散シタル後ニアラサレハ火消所外ニ出スヘカラス

第十五條 焚物置場及其小出シ場外ニ燃料ヲ置クヘカラス

第十六條 浴槽湯槽水槽及流シ場等ハ毎日竈烟突其他焚物置場ハ毎月一回已上掃除ヲ爲スヘシ但竈烟突ノ掃除ニ係ルハ休業ヲ爲シ其期日ヲ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十七條 浴場ニ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修理ヲ加フヘシ但一部ノ修繕ニ係ルトキハ着手落成共所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ

●勳章記章ニ類似ノ標章佩用禁止

四百三十四

第二十條 本則ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ依リ拘留又ハ科料ニ處ス
一 第一條第三條第五條第十六條第十七條ハ刑法第四百二十五條
第五項ニ依リ三日以上十日以下又ハ一圓以上一圓九十五錢以
下

二 第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條
第十四條第十五條ハ一日已上二日以下五錢已上九十五錢以下

○勳章記章ニ類似ノ標章佩用禁止 明治二十八年八月十七日
勅令第百十八號

勳章又ハ勅命ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何
等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日
以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
外國ノ勳章記章並ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本
令ニ因リ變更スルノ限ニアラス

第十四類 墓地火葬場及汚穢物

●刑死者墓標建設等取締方 明治二十四年七月二十七日
內務省令第十一號

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記
入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス異
様ノ墓標ヲ建設シ及文字ノ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得シテ死刑者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フ
コトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫真其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得
ス

其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若
クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、拘留、服刑中ノ者若クハ捜査、起

●刑死者墓標建設等取締方

四百三十五

訴、拘留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レントシテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

●墓地及埋葬取締規則 明治二十四年八月十日 警察令第十二號

第二條 墓所内ハ其使用者ニ於テ掃除ヲ爲シ又墳墓并附屬ノ建設物其他樹木等危險顛仆ノ虞アルトキハ速カニ修理ヲ加フヘシ但管理者ニ於テ危險顛仆ノ虞アリト認ムルトキハ其旨使用者ニ通知スヘシ

第三條 墓所ニ塵芥其他ノ不潔物ヲ投棄スヘカラス

第四條 墓地内ニ於テ鳥獸ヲ捕リ又ハ濫リニ竹木ヲ伐採スヘカラス

第五條 墓碑其他建設物及ヒ供品ヲ毀棄若クハ汚損スヘカラス

第六條 誌銘傳贊等ヲ記スル碑表ヲ建設セントスル者ハ其文案并圖面ヲ添ヘ建設地所轄ノ警察署ヘ願出テ許可ヲ受クヘシ但氏名族籍官位勳爵法號年月日ノミヲ記スルモノハ此限ニアラス

第七條 朱引内ノ墓地ニハ死屍ト遺骨トニ拘ラス總テ埋葬ヲ爲スヘカラス但明治七年八月以前ニ死シタル配偶者ノ墓所ニ合葬スルモノ又ハ燒骨ニ係ルモノハ此限ニアラス

第八條 埋葬又ハ改葬ヲ爲サントスル者ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 埋葬ハ區長又ハ町村長ノ認許證ヲ受ケ火葬ハ尙ホ之ニ火葬場管理者ノ捺印ヲ受クヘキモノトス
- 二 改葬ハ願書ニ遺骸アル墓地管理者ノ加印ヲ受ケ之ヲ其墓地所轄警察署ニ差出シ許可證ヲ受クヘキモノトス
- 三 認許證若クハ許可證ハ其埋葬又ハ改葬スヘキ墓地ノ管理者ニ差出スヘキモノトス

第九條 塋穴ノ深サハ六尺以上トス但地質ニ依リ此制限ニ從ヒ難キ
墓地ハ管理者ニ於テ豫メ墓地所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 燒骨ノ塋穴ハ前條ノ限リニアラスト雖モ其深サハ三尺以上
トス但特別ノ裝置アルモノハ此限ニアラス

第十一條 改葬ノ爲メ墳墓ヲ發掘スルトキハ所轄警察官ノ臨檢ヲ受
ケ相當ノ消毒法ヲ施行スヘシ

第十二條 廢止ニ係ル墓地ノ遺骸ハ改葬スヘシ但特許ヲ得タルモノ
ハ此限ニアラス

第十九條 本則ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ依リ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 第二條第三條第九條第十條第十一條第十二條ハ刑法第四百二
十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下又ハ五拾錢以上一圓五
拾錢以下
- 二 第四條第五條ハ刑法第四百二十六條第十項ニ依リ二日以上五

日以下又ハ五拾錢以上一圓五拾錢以下

三 第六條ハ二日以上五日以下又ハ五拾錢以上一圓五拾錢以下

四 第七條ハ刑法第四百二十五條第十三項ニ依リ三日以上十日以
下又ハ一圓以上一圓九十五錢以下

五 第八條ハ刑法第四百二十七條第十項ニ依リ二日以上三日以下
又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下

●火葬場取締規則 明治二十年四月十一日
警察令第五號

第二條 火葬場ヲ新設若クハ改造セントスル者ハ其願書ニ建築改造
トモ其落成期日ヲ記載シ場所借地ナレハ
地主連署及ヒ構造ノ圖面ヲ添ヘ所轄
警察署ヲ經テ警視廳ニ差出シ免許ヲ受クヘシ但落成ノ上警視廳ノ
検査ヲ受ケサレハ開業スルコトヲ得ス

火葬場ヲ讓渡サントスル者ハ讓受人連署ノ書面ヲ以テ所轄警察署
ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受ク可シ

◎火葬場取締規則

第三條 火葬場ヲ改修セントスル者ハ其旨警視廳ニ届出之カ爲メ休業スル時ハ其落成期日ヲ届書ニ記載ス可シ

第五條 廢業セントスル者ハ其三日前ニ又轉居改氏名ヲ爲シタル者ハ其都度所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ届出ツ可シ

第八條 火葬料ハ相當ノ額ヲ定メ豫テ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ其増減ヲ要スルトキ亦同シ

第九條 火葬依托人アルトキハ埋葬認許證ヲ領置シ其裏面ニ火葬ノ年月日時ヲ記シ署名捺印ノ上之ヲ返付ス可シ

第十條 火葬場ニハ帳簿ヲ備ヘ之ニ火葬依托人并ニ死者ノ族籍住所氏名及ヒ火葬ノ年月日時ヲ登記ス可シ

第十一條 火葬ノ時間ハ日没ヨリ日出迄ヲ限リトス但臨時警視廳ヨリ指定スルトキハ此限リニアラス

第十二條 死屍ハ丁寧ニ取扱ヒ且衣服ヲ脱却スル等ノ事ヲ爲ス可ラ

ス

第十三條 埋葬認許證ヲ所持セス又ハ之ヲ所持スルモ死亡後二十四時間ヲ經過セサル者ハ火葬セシムヘカラス但傳染病ニ限リ臨時警視廳ノ指定ヲ得テ其死亡後ノ時間ヲ伸縮スルコトアル可シ

第十四條 正當ノ事故ナクシテ火葬ノ需メヲ拒絕シ又ハ定料ノ外別ニ金錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第十五條 火葬室烟筒場其他場内ハ總テ不潔ナキ様常ニ掃除ヲ爲ス可シ

第十六條 本則第二條第一項第八條第十一條第十二條第十三條第十四條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 本則第九條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●畜舎取締規則 ●屠獸場取締規則

四百四十二

第十八條 本則第二條第二項第三條第五條第十條第十五條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

○畜舎取締規則 明治二十五年二月一日
警察令第一號

第二條 畜舎ハ第四條ノ構造制限ニ從ヒ建設シ所轄警察署ニ届出使
用ノ認可ヲ受クヘシ但改造増築變更シタルトキ亦同シ

第三條 畜舎ヲ廢シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第五條 前條ノ構造破損シタルトキハ速ニ改修ヲ加フヘシ

第六條 畜舎ノ内外ハ常ニ清潔ニ爲シ糞尿及不潔物溜ハ充溢セサル
様時々掃除ヲ爲スヘシ

第七條 本則第二條第三條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百
二十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一
圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

●屠獸場取締規則 明治二十年三月十四日
警察令第三號

第一條 屠獸場ハ自用ト販賣トヲ問ハス牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス
其場外ニ於テハ一切屠殺スルコトヲ得ス

第四條 屠獸場ヲ新設若クハ移轉セントスル者ハ其願書ニ建築落成
期日ヲ記載シ其場所借地ナレハ
地主連署及ヒ構造ノ圖面ヲ添へ所轄警察署ヲ
經テ警視廳ニ差出シ免許ヲ受ク可シ但落成ノ上警視廳ノ検査ヲ受
ケサレハ開業スルコトヲ得ス

屠獸場ヲ讓渡サントスル者ハ讓受人連署ノ書面ヲ以テ所轄警察署
ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受ク可シ

第五條 屠獸場ヲ改修セントスル者ハ其旨所轄警察署ヲ經テ警視廳
ニ届出之レカ爲メ休業スル時ハ其落成期日ヲ届書ニ記載ス可シ

第七條 廢業セントスル者ハ其三日前ニ又ハ轉居改氏名ヲ爲シタル
モノハ其都度所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ届出可シ

第十條 屠獸場ハ毎日掃除シ屠室及ヒ溝筋ハ屠殺終リタル毎ニ之ヲ

洗滌ス可シ

第十一條 臟皮骨及ヒ血液汚水汚物ノ類ハ毎日之ヲ取除ク可シ

第十二條 屠殺スヘキ獸類ハ出張官吏ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ屠室ニ牽キ入ルコトヲ得ス

第十四條 屠殺セシ獸肉ニハ検査官吏ノ檢印ヲ受クヘシ檢印ヲ受ケサル獸肉ハ場外ニ持出スコトヲ得ス

第十七條 屠殺時間内ハ屠獸場ノ門戸ヲ閉鎖ス可シ

第十八條 屠殺手數料ハ屠獸ノ種別ニ依リ其額ヲ定メ豫テ警視廳ノ認可ヲ受ク可シ其増減ヲ要スルトキハ亦同シ

第十九條 正當ノ事故ナクシテ屠殺ノ需メヲ拒絕シ又ハ手數料ノ外別ニ金錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十條 本則第一條第四條(一項)第十條第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上

一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 本則第十八條第十九條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 本則第四條(二項)第五條第七條第十七條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

●魚腸骨取締規則 明治二十七年四月六日 警視廳令第二十三号

第二條 魚腸骨取扱場ヲ建設セントスル者ハ其圖面及ヒ構造仕様書ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其改造變更若クハ増設ヲ要スルトキ亦同シ

第四條 前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第五條 魚腸骨取扱場外ニ於テ魚腸骨ヲ積置キ又ハ其樽詰等ヲ爲スヘカラス

●魚腸骨取締規則

第六條 魚腸骨取扱場ノ出入口及ヒ窓牖ハ常ニ閉鎖シ置クヘシ

第七條 魚腸骨ノ運搬容器ハ二重蓋ニシテ臭氣ノ漏出セサル様構造
シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出檢印ヲ受クヘシ其改造修繕ヲ爲
シタルトキ亦同シ

第八條 魚腸骨ヲ運搬スル者ニハ左ノ標札ヲ携帯セシムヘシ
三寸

木札

魚腸骨取扱營業	運搬人
住所氏名	住所氏名

第九條 取集メタル魚腸骨ヲ他ニ運搬セントスルトキハ之ヲ樽詰ト
爲シ臭氣ノ漏出セサル様漆喰ヲ以テ目塗ヲ爲スヘシ

第十條 魚市場料理店其他多數ノ魚類ヲ使用スル營業者ハ其魚腸骨

ヲ即日人家懸隔ノ地ニ搬出スヘシ

第十一條 本則第二章第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十
條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ二日以上五日
以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

● 廁圍下水取締規則 明治二十年四月十四日
警察令第六號

第三條 本則第二章ノ各條ニ係ルモノハ新設改造ニ論ナク其着手前
落成後トモ所轄警察署ニ届出ツ可シ (第二章ハ
構造ナリ)

第四條 廁圍ハ左ノ各項ニ從テ構造ス可シ但周邊ノ土地ヲ汚ス虞ナ
キ特殊ノ用器若クハ構造ニ係ルモノハ此限リニアラス

- 一 廁圍ヲ設クル地ハ地盤ヨリ三寸以上ヲ高クシ雨水ノ流入ヲ防
クヘシ
- 二 廁圍踏板下ノ周壁ハ石材煉化石又ハ厚板 「パンキ」又ハ「コールタ
ル」ヲ塗リタルモノ
以テ構造スヘシ

● 廁圍下水取締規則

- 三 尿管壺ハ内外ニ釉藥ヲ施シタル翼又ハ不滲透質「セメント」「コンクリート」ノ材料ヲ以テ構造スヘシ
 - 四 尿管壺ノ周邊ハ厚サ三寸以上ノ「コンクリート」ヲ以テ構造シ尿管ノ壺中ニ流下スヘキ勾配ヲ付スヘシ
 - 五 便器ヲ牀下ニ入レ時々交換スヘキ装置ヲナシタル廁圍ノ底面ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スヘシ
- 第七條 下水ハ左ノ各項ニ從テ構造ス可シ
- 一 暗渠ハ石材煉化石「セメント」「敲内外ニ釉藥ヲ施シタル陶管ヲ以テ卵形若クハ圓形ニ造ルヘシ但其接際ハ「コンクリート」又ハ「セメント」若クハ「モルタル」ヲ以テ包裹スヘシ
 - 二 露渠ハ石材煉化石「セメント」敲内外ニ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ厚板底アルモノヲ以テ作ルヘシ但書同前
- 第八條 暗渠露渠ノ別ナク其幅員深淺ハ其承クル所ノ水量ニ應シ且

- ツ適宜ノ勾配ヲ付ス可シ
- 第九條 尿管ハ壺内ニ充溢セサル様時々汲取ルヘシ
- 第十一條 尿管ノ運搬ハ堅牢ナル容器ヲ用ヒ且緻密ナル蓋ヲ爲スヘシ但容器ハ検査ヲ經タルモノニアラサレハ使用スルヲ得ス
- 第十二條 尿管船ハ定メアル場所ノ外繫留スヘカラス但特ニ臭氣ノ發散ヲ防ケヘキ構造ニシテ警視廳ノ認可ヲ受ケタル船ノ外尿管ヲ船中ニ移スハ日没ヨリ日出迄ニ限ル
- 警視廳認可ノ船ヲ使用シ晝間尿管ヲ移スモノハ戸扉ヲ開放シ若クハ天井其他ノ周圍ニ間隙ヲ設クヘカラス
- 第十六條 下水ニハ魚鳥腸骨瓦礫塵芥等ヲ投棄スヘカラス
- 第十七條 下水ハ毎年夏季ヲ除クノ外二回以上浚渫スヘシ但泥土塵芥等ノ疏通ヲ妨クルトキハ臨時掃除又ハ浚渫スヘシ
- 第十八條 下水浚ヒ揚ケノ汚泥塵芥等ハ定メアル場所ニ非レハ之ヲ

●塵芥取締規則

投棄スヘカラス

第十九條 本則第三條第四條第七條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第二十條 本則第九條第十七條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 本則第八條第十條第十一條第十二條第十六條第十八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

●塵芥取締規則 明治二十七年六月三十日
警視廳令第三十六号

第一條 本則ハ市内及品川町、内藤新宿町、巢鴨町、板橋町、南千住町、千住町ニ適用ス

第二條 塵芥ハ芥溜、塵芥容器若クハ定メタル場所ノ外ニ投棄スヘカラス

第三條 芥溜又ハ塵芥容器ニ塵芥ノ堆積セサル様時々掃除ヲ爲スヘ

シ

第四條 塵芥ノ運搬ニハ蓋ヲ有シ漏泄ノ虞ナキ容器ヲ用井途上ニ散逸セシムヘカラス

第五條 芥溜ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但人家稠密ナラサル土地ニアリテハ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ本條ノ制限ニ拘ハラス便宜ノ芥溜ヲ設クルコトヲ得

一 芥溜ハ井戸ヲ距ル三間以上タルヘシ

二 芥溜ノ底部ハ不滲透質(石、煉化石、コンク
リート、漆喰、敵ノ類)ノ材料ヲ以テ敷設スヘシ

三 芥溜ノ側圍ハ不滲透質ノ材料又ハ厚板ヲ用井其掃除口ハ插蓋ヲ用ウヘシ

四 芥溜ノ上部ニハ適當ノ雨除ヲ設クヘシ

第六條 塵芥容器ハ蓋ヲ有セル漏泄ノ虞ナキモノヲ用ウヘシ

●塵芥取締規則

第七條 塵芥掃除ノ營業ヲ爲サントスル者ハ塵芥取扱場ノ圖面ヲ具シ且其掃除受負料ヲ定メ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ塵芥取扱場ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第九條 塵芥掃除營業者住所氏名ヲ變更シ若クハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

第十條 第五條第八條ノ構造落成シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十一條 塵芥掃除ヲ請負ヒタル者ハ芥溜及塵芥容器ニ其住所氏名ヲ標記スヘシ

第十二條 塵芥取扱場外ニ於テ塵芥ヲ積置キ又ハ其選分等ヲ爲スヘカラス

第十三條 塵芥運搬ノ爲メ共同物揚場ヲ使用スルトキハ直ニ之ヲ船ニ積込ミ其都度清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第十四條 塵芥掃除營業者ハ塵芥ノ掃除又ハ運搬ニ從事セシムル人夫ニ左ノ標札ヲ携帯セシムヘシ

塵芥掃除營業	塵三寸
住所氏名	塵芥取扱人夫
	横二寸
	氏名

第十五條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十五類 田野漁獵

●狩獵法 明治二十八年三月二十七日 法律第二十號

●狩獵法

第二條 爆發物、据銃若ハ危險ナル毘及陷穿ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スル
コトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長
官東京府下ハ警視
總監以下做之ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クル
コトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所
ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲
スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園

五 社寺境内

六 墓地

七 欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル
他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免許ヲ受ケ
シ但シ欄、柵、圍障アル所有内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲
ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免許ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免許ヲ検査スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免許ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免許ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之
ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

●狩獵法

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スル
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ

下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ

禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁

止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラズ

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖モ農商務大臣定ムル所ノ規

則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣

之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ノ卵又ハ雛ヲ取り若ハ之ヲ販賣スルコ

トヲ禁ス

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背

シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第

九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタ

ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八

條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條

第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタ

ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

● 臘虎臘豚獸獵法 明治二十八年三月六日 法律第十號

● 臘虎臘豚獸獵法

第一條 臘虎臘肭獸ヲ獵獲セントスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 臘虎臘肭獸保護ノ爲勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵船獵具、獵法ヲ制限シ牝牡、年齢ニ依リ其獵獲ヲ禁スルコトヲ得

第三條 軍艦艦長、警察官吏、税關官吏其他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ臘虎臘肭獸獵船、獵具及獵獲物ノ検査ヲ行ヒ犯則者ト認ムヘキ者及船員ヲ抑留シ獵船、船具、獵具、船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

第四條 禁獵區内又ハ禁獵期間ニ於テ臘虎臘肭獸ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船、船具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條 獵船、獵具、獵法ノ制限及牝牡、年齢ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船獵具及獵獲物ノ検査ニ關スル規程ニ違背シタル者

ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ臘虎臘肭獸ヲ獵獲シタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條 第四條、第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其代價ヲ追徴ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス
明治十七年第十六號布告及明治十九年勅令第八十號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

(參照)

第十六號布告(明治十七年五月二十三日)

自今北海道ニ於テ臘虎並臘肭獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタ

●臘虎臘肭獸獵法

● 害蟲驅除豫防法

ル者ハ其代價ヲ追徴ス

但農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス

明治十九年七月十日官報勅令第八十號ハ臘虎並臘豚獵獲及其生皮輸入
販賣規則ナリ

○ 害蟲驅除豫防法 明治二十九年三月二十五日
法律第十七號

第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルキハ府縣知事
ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町
村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其費用ヲ徵收セシム
ルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制第二百一條及町村制第百
二條ヲ適用ス

第六條 府縣知事ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝
渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈刈株雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第八條 土地所有者管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者
ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ従ハサル者ハ五錢
以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ
行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二
十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 此ノ法律ハ北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セザル
島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

● 山野火入取締規則 明治二十六年八月九日
警察令第三十六號

第一條 山野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ其地所轄
ノ警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ但巡查駐在所ノ設ケアル

● 山野火入取締規則

地ニ於テハ其最寄駐在所ヲ經テ願出ヘシ

一 火入期日

二 火入ノ箇所地目段別及字番號

三 四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖但方位ヲ附記スルヲ要ス

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サントスル山野ニ接シタル森林原野ノ境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野ノ所有者又ハ管理者ヘ少クトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告スヘシ

第三條 防火線ハ幅三間以上トシ都テ柴草ヲ蒔採リ落葉並ニ塵芥ヲ除去シ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケヲ爲スヘシ但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限リニアラス

第四條 日出前日沒後及ヒ風勢穩カナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス

第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其

場ヲ退カザムヘカラス

第七條 中止又ハ延期ニ因リ更ニ火入ヲ爲サントタルトキハ其旨認可ヲ受ケタル警察署若クハ分署ニ届出尙ホ第二條ノ森林原野ノ所有者又ハ管理者ヘ報告スヘシ

第八條 第一條第二條第三條第四條第五條第七條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ料科ニ處ス

附 錄

●憲兵條例 明治二十八年七月四日勅令第九十五号

第一章 總則

第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察、行政警察、司法警察ヲ掌ル其戰時若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ハ別ニ之ヲ定ム

●憲兵條例

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ルモノハ内務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ニ隸ス

第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事東京府及檢事ノ指示ヲ承ク

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

第一 暴行ヲ受受ルトキ

第二 其ノ占守スル所ノ土地若クハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條 必要ノ場合ニ際シ内務大臣陸軍大臣協議シテ憲兵ヲ一時其ノ師管外ニ分派スルコトヲ得

第二章 配置編制

第七條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各師管ニ憲兵隊ヲ配置ス其ノ管轄區域ハ師管ノ區域ニ依ル但一府縣ニシテ兩師管ニ跨ルモノハ其ノ府縣廳所在地ヲ管轄スル憲兵隊ノ管轄ニ屬ス

第八條 各師管ノ衛戍地、要塞地、鎮守府、北海道廳、各府縣廳所在地及其他ノ要地ニ漸次憲兵分隊ヲ置キ其ノ管轄區域ヲ憲兵管區トス

第九條 各管區ヲ數箇ノ憲兵巡察區ニ分畫シ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ配置ス

第十條 憲兵管區ノ區域ハ内務大臣陸軍大臣協議シテ之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵隊長ヨリ警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ニ協議シテ之ヲ定ム

第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如シ

憲兵司令官 憲兵大佐

副官 憲兵大中尉

軍吏

書記 憲兵下士軍吏部下士若クハ屬

第十二條 憲兵隊ノ職員左ノ如シ

本部

隊長 憲兵中少佐

副官 憲兵大中尉

軍吏

下副官(准士官) 憲兵曹長

書記 憲兵下士若クハ軍吏部下士

分隊

分隊長 憲兵大中尉

書記 憲兵下士

上等伍長(准士官) 憲兵曹長

伍長

但上等伍長ヲ置カサルコトヲ得

憲兵上等兵

第十三條 憲兵上等兵五名乃至十二名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一

分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

時宜ニ依リ一伍中ノ若干名ヲ乘馬兵トナス

第十四條 憲兵隊ハ師管ノ番號ヲ附シ憲兵分隊ハ府縣名ヲ冠ス但一

府縣ニ分隊二箇以上ヲ置クトキハ番號ヲ附ス

第三章 職務

第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理

ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認マル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵隊長ハ部下ヲ董督シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ警視總監北海道廳長官府縣知事東京府及其ノ地所在ノ檢察長檢察正及憲兵司令官ニ申報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ管區内ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ分隊ノ事務ヲ處理ヌ又管區内ノ事情ハ常ニ地方警察官ト相互諜報スヘシ

第二十一條 憲兵上等伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察區内ヲ巡視シ其事情ヲ審ニスヘシ

第二十二條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區内ヲ畫シテ巡察シ其事情ヲ審ニスヘシ但特ニ上官又ハ檢事ノ命アルトキハ自他ヲ區畫スルノ限ニアラス

第二十三條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム

第四章 補充

第二十四條 憲兵士官下士ノ補充ハ陸軍武官進級條例ニ依ルノ外各兵科士官下士ノ内ヨリ選任ス但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以テ上其ノ職務ニ服シタル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十五條 憲兵上等兵ハ現役豫備役及後備役ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ檢査合格ノ者ヨリ選用ス

第二十六條 憲兵下士上等兵ノ選任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五章 服役

第二十七條 憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服
セシム

現役満期ノ時前兵科ノ服役年月ヲ通算シテ十二箇年ニ滿タサル者
ハ通シテ十二箇年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム其ノ十二箇年ヲ過
クル者ハ之ヲ免除ス

第二十八條 憲兵下士上等兵ハ服役満期ノ後再服役ヲ請願スルコト
ヲ得再服役ハ三年ヲ以テ一期トシ年齢定限ニ至ル迄ハ數次請願ス
ルコトヲ得但一期間ニ於テ定限年齢ニ達スル者ハ其ノ定限年齢迄
トス

其ノ再服役満期ノトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第二十九條 再服役ヲ請願スル者ハ現ニ所屬ノ部隊ニ於テ服役スル
モノトス其ノ分隊ニ在テハ分隊長ト誓約シ憲兵隊本部ニ在テハ隊

長ト誓約シ憲兵司令部ニ在テハ憲兵司令官ト誓約ス但本文ノ場合
ニ於テ分隊長及隊長ハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ

第三十條 再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアリト雖モ從前ノ
誓約ハ新ニ屬スル所ノ部隊ノ長ニ移ルモノトス

第三十一條 服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若クハ事變ニ際シテハ
期限ヲ延スコトアルヘシ

第三十二條 再限役満限ニ至リタル者其ノ服役十二箇年ヲ過クルモ
仍其ノ年數ヲ定メ後備役ニ服セシムコトヲ志願スルトキハ隊長憲兵
司令官ノ認可ヲ得テ之ヲ許可スルコトヲ得但憲兵司令部附ノ者ハ
憲兵司令官ニ於テ許可スヘシ

憲兵司令官又ハ隊長前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所轄ノ大
隊區司令官ニ通報スヘシ

第三十三條 憲兵下士上等兵現役中ハ左ニ掲クル者ニ限リ特ニ之ヲ

免除ス

- 第一 本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事實ヲ證明シ願出ル者
- 第二 疾病若クハ傷痍ニ因リ現役ニ堪ヘ難キ者
- 第三 素行不修又ハ職務不適當ノ者
- 第四 疾病若クハ傷痍ニ因リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者
- 第五 疾病若クハ傷痍ニ因リ永久服役ニ堪ヘ難キ者
- 第二十四條 前條第一第二第三ニ當ル者ニシテ前兵科ノ服役年月ヲ通算シ七箇年ニ滿マサル者ハ通シテ七箇年ニ滿ツル迄豫備役ニシテ二箇年ニ滿マサル者ハ通シテ十二年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム其ノ服役十二箇年ヲ過キタル者及前條第四ニ當ル者ハ常備後備ノ役ヲ免除シ其ノ第五ニ當ル者ハ兵役ヲ免ス
- 第二十五條 憲兵下士上等兵其ノ職務ヲ辱シムルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受クルトキハ陸軍懲罰例ノ規定ニ拘ラス官職ヲ免スルコトヲ得

第三十六條 前條ニ依リ官職ヲ免セラレタル者及刑法又ハ陸軍懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免セラレタル者ハ前兵科ニ服シ兵卒トナシ憲兵科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿マサル者ハ其ノ年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム其ノ十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十七條 第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ現役又ハ兵役ヲ免ス

第六章 附則

第三十八條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ隊長ノ職ニ充ツルコトヲ得

●憲兵管區表 明治二十九年一月十七日
 内務陸軍兩省告示

●憲兵管區表

憲兵管區表

隊號	管區名稱	管轄區域
第一	東京憲兵第一管區	麴町區、赤坂區、日本橋區、芝區、麻布區、東多摩郡、四谷區、南多摩郡、南豐島郡、荏原郡、東多摩郡、淺草區、本所區、北多摩郡、神田區、牛込區、小石川區、本郷區、下谷區、淺草區、本所區、深川區、北豐島郡、南足立郡、南葛飾郡、西多摩郡
第二	東京憲兵第二管區	神奈川區、橫濱市、久良岐郡、橋樹郡、都筑郡
第三	神奈川憲兵第一管區	橫濱市、久良岐郡、橋樹郡、都筑郡
第四	神奈川憲兵第二管區	三浦郡、鎌倉郡、高座郡、大住郡、海老原郡、足柄上郡、足柄下郡、愛甲郡、津久井郡
第五	群馬憲兵管區	群馬縣
第六	千葉憲兵管區	千葉縣

憲兵管區表

第三	第二	第一
愛知憲兵第二管區	愛知憲兵第一管區	秋田憲兵管區
碧海郡、幡豆郡、額田郡、西加茂郡、東加茂郡、北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡、渥美郡、八名郡	名古屋、愛知郡、東春日井郡、西春日井郡、丹羽郡、知多郡、中島郡、海東郡	秋田縣
山梨憲兵管區	宮城憲兵管區	新潟憲兵管區
山梨縣	宮城縣	新潟縣
青森憲兵管區	青森縣	

隊 兵 二 憲 四 第		隊 兵	
京都憲兵管區	大阪第二管區	富山憲兵管區	石川憲兵管區
京都府	東區 勝間村、勝間村、西濱町、難波、 今宮村、水津村ヲ除ク 野田村、櫻井村、 北區 島上郡 西區 西成郡ノ内 北新開莊村、 東成郡ノ内 北新開莊村、 西濱町、 難波村、 宮村、 水津村、 津島村、 野田村、 清永村ヲ除ク	富山縣	石川縣
讚良郡	若江郡 能勢郡 澁川郡 高安郡 茨田郡 河内郡 交野郡	南區 西成郡ノ内 難波村、 勝間村、 西濱町、 東成郡ノ内 北新開莊村、 櫻井村、 宮村、 水津村、 津島村、 野田村、 清永村ヲ除ク	三重縣
大坂第一管區	大坂第一管區	三重縣	三重縣
住吉郡 古市郡 丹波郡 泉北郡	住吉郡 古市郡 丹波郡 泉北郡	三重縣	三重縣
石川郡 安宿郡 大縣郡 南郡	石川郡 安宿郡 大縣郡 南郡	三重縣	三重縣
錦部郡 丹南郡 堺區 日根郡	錦部郡 丹南郡 堺區 日根郡	三重縣	三重縣
志紀郡 八上郡 大鳥郡	志紀郡 八上郡 大鳥郡	三重縣	三重縣

隊 兵 五 第		兵 庫 憲 兵 管 區	
廣島第一憲區	廣島第二管區	山口憲兵管區	山口縣
廣島市 安藝郡ノ内 宮原村、和庄村、 莊山田村、 磐屋村、 吉浦村、 大屋村、 燒山村、 本庄村、 江田島村、 瀬戸島村、 中村、 鹿川村、 飛渡瀬村、 大柿村、 深江村ヲ除ク	廣島第二管區 安藝郡ノ内 宮原村、和庄村、 莊山田村、 磐屋村、 吉浦村、 大屋村、 燒山村、 本庄村、 江田島村、 瀬戸島村、 中村、 鹿川村、 飛渡瀬村、 大柿村、 深江村ヲ除ク	山口縣	山口縣
山縣郡 御調郡 安那郡 甲奴郡 三上郡	山縣郡 御調郡 安那郡 甲奴郡 三上郡	山口縣	山口縣
賀茂郡ノ内 阿賀村、 廣村、 郷原村ヲ除ク	賀茂郡ノ内 阿賀村、 廣村、 郷原村ヲ除ク	山口縣	山口縣
沼田郡 高宮郡 豐田郡 深津郡 品治郡 三谿郡 高田郡	沼田郡 高宮郡 豐田郡 深津郡 品治郡 三谿郡 高田郡	山口縣	山口縣
神石郡 奴可郡	神石郡 奴可郡	山口縣	山口縣
愛媛憲兵管區	山口憲兵管區	山口縣	山口縣
愛媛縣	山口縣	山口縣	山口縣

憲兵管區表

備考	第六憲兵隊					
一	宮崎憲兵管區	鹿兒島憲兵管區	福岡憲兵管區	長崎憲兵管區	熊本憲兵管區	香川憲兵管區
ヨリ滋賀縣大津町へ一伍分遣ス	宮崎縣	鹿兒島縣	福岡縣	長崎縣	熊本縣	香川縣
當分ノ内青森分隊ヨリ北海道函館區へ二伍京部分隊						

●警察署同分署所轄區域表 明治二十六年四月一日 警視廳告示第十六號

麴町區	
代官町 元千代町 竹平町 永樂町 西日比谷町 裏霞ヶ關 永田町 麴町 同準町 元平河町 上二番町 土手三番町 上六番町	祝田町 大手町 道三町 八重洲町 内山下町 外櫻田町 飯田町 同山元町 同元園町 富士見町 下二番町 四番町 中六番町
麴町 同準町 元平河町 上二番町 土手三番町 上六番町	寶田町 元衛町 錢瓶町 有樂町 霞ヶ關 三年町 内幸町 同紀尾井町 同平河町 一番町 三番町 五番町 下六番町

麴町警察署

麴町區麴町八丁目十九番地

神田警察署

神田區錦町二丁目一番地

一ツ橋通町
北神保町

今川小路三丁目
表神保町

南神保町
裏神保町

●警察署同分署所轄區域表

警察署同分署所轄區域表

本日

大傳馬鹽町三丁
小傳馬鹽町三丁
堀留町三丁
小網町四丁
元濱町四丁
新乘物町
新和泉町
新葎町
小網町仲町
松島町仲町
馬喰町四丁

鐵砲町
通旅籠町
堀江町
田所町
彌生町
長谷川町
堀谷町
高砂町
住吉町
元大坂町
小傳馬鹽町上町
通鹽町

大傳馬鹽町二丁
通油町
小船町三丁
新大坂町
新木町
富澤町
岩代町
芳代町
浪花町
龜井町
橫山町三丁
四百八十一

日本橋警察署

日本橋區久松町四十一番地

圓

同松富町
同八名川町
須田町
西福田町
美倉町
東紺屋町
東龍閑町
橋本町三丁

同五軒町
同餅島町
同乘物町
東南川町
東松町
東鳥下町
金澤町

同元久右衛門町
二丁
通新石町
東福田町
北乘物町
元岩井町
岩本町
江川町
田代町

區田神

西小川町三丁
猿樂町三丁
裏猿樂町
駿河臺南町
同東紅梅町
同田連雀町
同神田子連町
同皆川町
同永富町
同佐柄木町
同堅大柄町
同塗師町
同同朋町
同同鍛冶町
同同黒門町
同同材木町
同同大和町
同同柳町
同同佐久間町
同同花岡町
同同松永町
同同仲廣町
同同末廣町

三崎町三丁
猿樂町三丁
美土代町四丁
同西北町
同同錦町
同同鎌倉町
同同口倉町
同同旭町
同同千代田町
同同多田町
同同上白町
同同同所町
同同同鍋町
同同同小柳町
同同同富山町
同同同平永町
同同同元佐久間町
同同同平河町
同同同相生町
同同同旅籠町
同同同榮町

四百八十
小川町
中猿樂町
三河町四丁
同袋町
同同鈴木町
同同淡路町
同同松燭下町
同同同蠟燭町
同同同新銀町
同同同新石町
同同同西今町
同同同宮本町
同同同宮住町
同同同下白壁町
同同同松枝町
同同同元柳町
同同同文右衛門町
同同同和泉町
同同同花房町
同同同山田町
同同同龜住町

長澤町 本八町堀五丁
 靈岸島濱町 同銀町二丁
 長崎町二丁 東湊町二丁
 石川島 月島通十一町
 月島西河通十一丁 月島東中通十一丁
 幸町 富島町 同鹽町
 靈岸島町 越前堀二丁 新船松町
 月島通十一町
 日比谷町 薩新堀二丁 同四日市町
 大川端町 川口町 佃島
 月島西中通十一丁 月島東中通十一丁
 東河通十一丁

芝警察署

芝區芝愛宕町三丁目六番地

芝口三丁 柴井町 新幸町
 南佐久間町二丁 同太左衛門町
 同備前町 同和泉町
 日蔭町二丁 同神山町
 同城山町 同神谷町
 田村町
 源助町 汐留町二丁 二葉町
 新櫻田町 同久保町
 同伏見町 兼房町
 西ノ久保明船町 同廣手町
 同萱手町 宇田川町
 露月町 今入町 琴平町
 櫻田本郷町 同善右衛門町
 同鍛冶町 同巴町
 同八幡町 同櫻川町
 宇田川横町

警察署同分署所轄區域表

麻布警察署

麻布區麻布永坂町三十五番地

神明町 同愛宕下町四丁 同新網町
 同榮町 同七軒町 同土手跡町
 同金杉濱町 同西應寺町 同車町
 同赤羽町 同二本榎本町 同芝四丁
 同入横町 同北町 同田四丁
 同功運町 同小坂町 同老松町
 同老増町 同今里町
 芝公園地 同濱松町四丁 同三島町
 同中門前町三丁 同金杉四丁
 同金杉新濱町 同新門前町
 同橫新町 同伊皿子町
 同二本榎西町 同高輪木町
 同高輪町 同臺町
 同四國町 同臺町二丁
 同綱町 同南寺町
 同若塚町 同猿町
 同三光町
 芝愛宕町三丁 同新錢座町 同濱崎町
 同宮本町 同片門前町二丁
 同金杉川口町 同新堀町
 同田町九丁 同二本榎町
 同二本榎町二丁 同通新町
 同下町 同高輪南町
 同西町 同同町 同臺裏町
 同豐岡町 同北寺町
 同丹波町 同金志田町

圓一區布麻

飯倉町六丁
同麻布仲ノ町
同我善坊町
同三河臺町
同鳥居坂町
同宮下町
同材木町
同網代町
同宮村町
同本村町
同東堀町
同新堀町
同新上廣尾町

同狸穴町
同市兵衛町二丁
同永阪町
同東鳥居坂町
同南日夕窪町
同龍土町
同阪下町
同櫻田町
同霞町
同富士見町
同西鳥居町
同田鳥居町
芝森元町三丁

同片町
同今井町
同新網町二丁
同六本木町
同北日夕窪町
同新龍土町
同一本松町
同三軒家町
同山本町
同盛岡町
同竹谷町
同廣尾町
同北新門前町

圓一區坂赤

元赤阪町四丁
同表町四丁
同中ノ町
同氷川町
同檜町
同葵町

赤阪田町七丁
同裏町三丁
同一ツ木町
同福吉町
同南阪町

同溜池町
同新町五丁
同丹後町
同新阪町
同池榎町
同山南自一丁目
至六丁目

赤阪警察署

赤坂區赤坂表町三丁目三十七番地

圓一區谷四

四谷傳馬町三丁
同笹笥町
同北伊賀町
同舟町
同尾張町
同南寺町
同左門町
同大番町
同本村町
元鯨河橋南町
四谷西信濃町

同忍町
同阪町
同新堀江町
同愛住町
同仲馬三丁目
同傳馬新二丁目
同東信濃町
同七軒町
同河橋谷二丁目
同自十一丁目
同霞岳町

同鹽町三丁
同南伊賀町
同荒木町
同永住町
同寺賀町
同須賀町
同右京町
同平長町
元鯨河橋町
同市谷片町
同内藤町

四谷警察署

四谷區四谷左門町二丁目七十一番地

同北町目一丁目
至六丁目
同權田原町

同三筋町二丁
同高樹町

同六軒町

牛込警察署

牛込區神樂町一丁目地先河岸地

市ヶ谷田町三丁
同佐内阪町三丁

同本村町
同加賀町二丁

同砂土原町三丁
同甲良町

警察署同分署所轄區域表

牛込區一圓

同藥王寺前町 同船河原町 同山伏町 同河田町 同牛込細工町 同東五軒町 同赤城下町 同通寺町 同東糶町 同早稲田南町 同拂方町 同納戸町 同北山伏町 同白銀町 同築地町 同辨天地町 同仲里町 同中土八幡町 同築土八幡町 同早稲田鶴卷町

同同谷町 同同延寺谷町 同同柳町 同同樂町 同同二丁 同同揚十町 同同西五軒町 同同水道町 同同天神町 同同西馬場下町 同同南町 同同原三丁 同同喜久井町 同同上宮比町 同同肴宮町 同同若宮町 同同山吹町 同同新小川三丁

同同富久町 同同鷹匠町 同同仲ノ八幡町 同同市谷八幡町 同同若松町 同同築土前町 同同赤城元町 同同改代町 同同榎町 同同早稲田町 同同袋町 同同北山伏町 同同南山塚町 同同南下塚町 同同下宮比町 同同矢來町 同同岩戸町 同同横寺町 同同高田町 同同久保余丁町

四百八十八

小石川警察署

小石川表町

自三十一番地至三十四番地

小石川區一圓

小石川竹早町 同大塚下町 同大塚辻町 同新諏訪町 同水道町 同仲里町 同中富町 同初音町 同指谷町 同金富町 同原町 同丸山町 同西江戸町 同水端二丁 同臺三丁 同東古川町 同小東町 同青柳町 同東駒井町 同高田老松町 同小石川西原町 同白山御殿町

同大塚窪町 同大塚仲町 同大塚日町 同春日町 同江川町 同大門町 同西富町 同下富町 同柳山町 同白心町 同同前町 同同林町 同同宮下町 同同小日向武鳥町 同同老荷谷町 同同水道町 同同西古川町 同同櫻木町 同同青柳町 同同豐川町 同同西丸町 同同小石川氷川下町

同大塚上町 同大塚町 同諏訪町 同大和町 同表富町 同上富町 同餅差町 同同除町 同同掃崎町 同同久堅町 同同大原町 同同石川町 同同第六天町 同同清水谷町 同同三軒町 同同松枝町 同同羽水九丁 同同關口道町 同同司水町 同同雜司谷町 同同鶴籠町

本郷警察署

本郷區本郷元富士町三番地

四百八十九

警察署同分署所轄區域表

淺

淺草松葉町
同北松山町
同田島町

同田原町三丁
同北清島町
同柴崎町

同北田原町三丁
同松清町
同新谷町

四百九十一

淺草警察署

淺草區淺草象潟町十番地

圓 一 區 谷

同西町
同車阪町
同豐住町
同阪本町四丁
同三輪町
同谷二丁
同上野二丁
同西黒門町
同廣小路町
同櫻木町
池ノ端仲町
同阪町
同眞島町
同上三崎北町
同上根岸町
下谷入谷町

同南稻荷町
同上車阪町
同萬年町二丁
同新坂本町
同金杉上町
同善養寺町
練堀元町
同上野黒門町
同南大門町
同三橋町
同花園町
同七軒町四丁
同初音町
同三崎町
同中根岸町

同北稻荷町
同下車阪町
同山伏町
同阪本裏町
同金杉下町
同龍泉寺町
同上野公園地
同東黒門町
同北大門町
同山ノ下町
同五條町
同中清水町
同茶屋町
同上三崎南町
同中天王寺町
下谷根岸町

圓 一 區 郷 本

本郷六町
同元富士町
同西竹町
同荻坂町
同荻川町
湯島新花町
同天神下町
同切通片町
同浅賀町
同蓬萊町
同千駄木下町
同千駄木下町
同吉祥寺町
同丸山新町
同須賀町
同藍染町
同神明町

同金助町二丁
同元砂町
同眞砂町
同龍岡町
同三組町
同梅園町
同西門町
同追分町
同千駄木町
同片木町
同富士前町
同根津宮永町
同西須賀町
同清水町
同動坂町

同春木町三丁
同東竹町
同弓町二丁
同田町
湯島六町三丁
同天神町三丁
同切通町
同妻戀町
同曙町
同肴町
同千駄木林町
同福山町
同上富士前町
同八重垣町
同片岡彌生町
同夕岡彌生町

四百九十一

下谷警察署

下谷區上野西黒門町三番地

下

下谷二長町
同仲御徒町四丁
同同朋町

同竹町
同長者町二丁
同數寄屋町

同御徒町三丁
同阪町
同茅町二丁

本所區一

警察署同分署所轄區域表

本所千歳町 同徳右衛門町 同茅場三丁 同横網二丁 同相生五丁 同花崎町 同長崎町 同長岡町 同吉岡町 同北二葉町 同横川町 同石原町 同小梅町 同表瓦町 同中ノ郷竹町

同松井三丁 同菊川三丁 同元泉町 同小泉町 同緑江五丁 同入江町 同錦水町 同清水町 同三笠町 同花月町 同太田町 同柳島町 同本所番場町 同業北町 同新平町

同林町三丁 同柳原三丁 同藤代三丁 同松阪二丁 同龜澤二丁 同永倉二丁 同松代三丁 同吉田三丁 同南二葉町 同若宮町 同本所外手町 同小梅町 同荒井町 同松倉二丁 同原庭二丁

本所警察署

本所區本所相生町三丁目二十一番地

同三間町 同竝木町 同西仲町 同南松島町 同南清島町

同駒形町 同茶屋町 同高屋町 同七軒町 同新森町

同材木町 同東仲町 同阿部川町 同永住町 同柳原二丁

草區一圓

同新畑町 同花川戸町 同聖天戸町 同山瀨町 同象瀨町 同龜岡三丁 同元吉町 同淺草公園地 同揚屋町 同地方今戸町 同田中町 同上平右衛門町 同神上町 同旅籠町二丁 同新須賀町 同新福井町 同御藏前片町 同南富坂町 同新福富町 同西鳥越町 同北三筋町 同八幡筋町 同諏訪町

同北東仲町 同山ノ宿町 同出天二丁 同今戸町 同吉野町 同光月町 同新吉原五十軒町 同角玉町 同淺草玉姫町 同神吉町 同下平右衛門町 同森田町 同新旅籠町 同瓦屋町 同南元町 同北富坂町 同老松町 同東三筋町 同小島筋町 同同好町 同壽町

同馬道八丁 同金龍山下瓦町 同東若三丁 同橋場町 同山橋町 同淺草町 同江戸二丁 同京町二丁 同千束三丁 同淺草茅町二丁 同左衛門町 同新片町 同須賀町 同福井三丁 同新猿町 同北元町 同福富町 同元鳥越町 同西三筋町 同榮久筋町 同黒船町 同同森下町

海河

舟筏ノ航通セサル場所及ヒ大井村分署所轄ヲ除ク

水上警察署 大井村分署

荏原郡大井村九番地

同本村町	同富川町	同常磐町	同御船藏前二丁	同西元井町	同東平井町	同海邊町	同山本町	同元加賀町	同平久賀二丁	同萬年二丁	同龜久二丁	同扇町	同島田町	同富岡門前東仲町
同猿江裏町	同東森下町	同東六間堀町	同八名川町	同西平井町	同千田町	同岡公園地	同富岡門前二丁	同扇橋町	同永堀町	同冬木町	同鶴歩町	同木場町	同西永町	
同上大鳥町	同西森下町	同西六間堀町	同安宅町	同東元町	同古石場町	同深川洲崎辨天町	同富岡門前仲町	同越中鳥町	同三好町	同龜住町	同大和町	同茂森町	同數矢町	

水上警察署

京橋區明石町一番地

深川區

深川警察署

深川區深川富岡門前仲町七番地

同佃住町	同和倉町	同仲大工町	同久永町	同山本町	同伊勢崎町	同富田町	同材木町	同大住町	同中島町	同一色町	同諸町	同相川町	同深川佐賀町二丁
同壯丹町	同東扇橋町	同東大工町	同入船野町	同東平野町	同今川町	同堀川町	同東永代町	同蛤町	同松村二丁	同福住町	同熊井町	同松賀町	
同島崎町二丁	同石島町	同靈巖町	同西大工町	同吉永町	同西平野町	同清住町	同中西代町	同大島町	同黑江町	同伊澤町	同富吉町	同小松町	

圓

同元町
同横川町
同横川町
同島中ノ郷町
同小梅町

同瓦町
同梅業平町
同梅森町
同請地町
同須崎町

同八軒町
同柳島元町
同押上町
同押上町

荏原郡
沿海郡
及内川筋

舟筏ノ航通セサル場所ヲ除ク

四百九十六

品川警察署

荏原郡品川町元南品川宿
二百二十四番地

荏原郡一圓

品川町
駒澤村
大井澤村
松澤村
世田ヶ谷村
矢口村
玉川村

平塚村
池上村
羽田村
大崎村
馬込村
大森村

碑衾村
蒲田村
調布村
目黒村
入新井村
六郷村

新宿警察署

南豊島郡内藤新宿町元内藤
新宿二丁目十番地

豊多摩郡一圓

内藤新宿町
澁谷村
淀橋町
和田堀ノ内村
杉並村

落合村
大久保村
千駄ヶ谷村
井荻村
高井戸村

代々幡村
戸塚村
中野村
野方村

板橋警察署

北豊島郡板橋町元下板橋宿
八百九十番地

北豊島郡内

日暮里村
巢鴨村
中新井村
巢鴨町
上板橋村
石神井村

瀧ノ川村
板橋町
赤塚村
志村
長崎村
大泉村

岩淵町
下練馬村
王子村
高田村
上練馬村

千住警察署

北豊島郡南千住町元千住
南組七十五番地

南足立郡一圓

千住町
花畑村
西新井村
東淵江村

舎人村
綾瀬村
江北村

淵江村
伊興村
梅島村

南葛飾郡内

南綾瀬村
隅田村

寺島村
龜青村

本田村

北豊島郡内

南千住町

三河島村

尾久村

小松川警察署

南葛飾郡小松川村
四千六百六番地

警察署同分署所轄區域表

四百九十七

警察署同分署所轄區域表

青梅警察署 西多摩郡青梅町青梅 三百十八番地 四百九十九	北多摩郡 田無町 警察署 田無分署	北多摩郡 府中町 警察署
	田無町 清瀬村 奈良橋村 狭山村 中藤村 岸村 武藏野村 東山村 高木村 藏敷村 横田村	府中町 立川村 大神村 大河原村 上原村 郷地村 小金井村 小代村 神代村 狛江村 西府村 拜島村 宮澤村 築地村 砂川村 多磨村 千歳村 調布町

南多摩郡 八王子町 八王子警察署	南多摩郡 八王子町 八王子警察署	南多摩郡 飾磨郡 八王子警察署
	八王子町 由木村 元八王子村 加住村 七生村 稻城村 南村 鶴川村	八王子町 由井町 浅川村 恩方村 小宮村 桑田村

西多摩郡 青梅町 西多摩村 箱根ヶ崎村 長岡村 成木村 氷川村	西多摩郡 石畑村 霞村 三田村 小河内村	西多摩郡 調布村 熊川村 殿ヶ谷村 小曾木村 古里村
西多摩郡 五日市町 戸倉村 大久野村 平井村 東秋留村	西多摩郡 三ッ里村 小宮村 増戸村 菅生村 草花村	西多摩郡 明治村 檜原村 西秋留村 瀬戸岡村 原小宮村
青 梅 警 察 署 五 日 市 分 署		
西多摩郡五日市町 百五十番地		

罰則附録

勅令

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月二十五日

- 海軍 大臣 侯爵西郷 從道
- 陸軍 大臣 侯爵大山 巖
- 内務 大臣 伯爵板垣 退助
- 司法 大臣 芳川 顯正
- 拓殖務大臣 子爵高島勲之助

●憲兵條例 明治廿九年 勅令 五月廿五日

憲兵條例

●憲兵條例

第一章 總則

五百二

第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察、行政警察、司法警察ヲ掌ル其ノ戰時若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ルモノハ内務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ニ隸ス但北海道ノ行政警察ニ係ルモノハ拓殖務大臣ニ隸ス

第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事東京府ヲ除ク及檢事ノ指示ヲ承ク

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受クルトキ

二 其ノ占守スル土地若クハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條 必要ノ場合ニ際シ内務大臣、陸軍大臣、拓殖務大臣協議シテ憲兵ヲ一時其ノ管區外ニ分派スルコトヲ得

第二章 配置編制

第七條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各管區ニ憲兵隊ヲ配置ス
憲兵管區ハ別表ニ依ル

第八條 各府縣廳所在地及北海道樞要ノ地ニ漸次憲兵分隊ヲ置ク其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區トス

第九條 憲兵警察區ヲ數箇ノ憲兵巡察區ニ分畫シ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ配置ス

●憲兵條例

五百三

第十條 憲兵警察區ノ區域ハ府縣ハ其ノ區域ニ從ヒ北海道ニ在テハ陸軍大臣拓殖務大臣協議シテ之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵隊長ヨリ警視總監、北海道廳長官、府縣知事東京府ニ除クニ協議シテ之ヲ定ム

第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如シ
憲兵司令官
副官 少將若クハ憲兵大佐
軍吏 憲兵少佐、憲兵大中尉

第十二條 憲兵隊ノ職員左ノ如シ
本部 憲兵下士、軍吏部下士若クハ屬

隊長 憲兵中少佐
副官 憲兵大中尉
軍吏

下副官(准士官) 憲兵曹長

書記 憲兵下士若クハ軍吏部下士

分隊

分隊長 憲兵大中尉

分隊副長 憲兵中尉

書記 憲兵下士

上等伍長(准士官) 憲兵曹長
伍長

憲兵上等兵

分隊副長及上等伍長ハ之ヲ置カサルコトヲ得

第十三條 憲兵上等兵五名乃至十二名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス
時宜ニ依リ一伍中ノ若干名ヲ乘馬兵ト爲ス

第十四條 憲兵隊ハ番號ヲ附シ憲兵分隊ハ府縣名北海道ニ在テハ分隊首部所在地名ヲ冠ス

第三章 職務

第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、司法大臣、拓殖務大臣ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀、風紀、訓練、教育及職務服行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵隊長ハ管區内ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ衛戍司令官、要塞司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官、北海道廳長官及管轄控訴院檢察長ニ申報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス又警察區内ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ警視總監、府縣知事東京府ヲ除ク及管轄地方裁判所檢察正及憲兵隊長ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ直ニ衛戍司令官、要塞司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官ニ申報スヘシ

第二十一條 憲兵分隊長ハ常ニ警部長其ノ他警察署長ト交互諜報シ其ノ地方ノ情况ヲ知悉スヘシ

第二十二條 憲兵分隊副長ハ分隊ノ一部ヲ指揮ス其ノ職掌分隊長ニ

亞ク

第二十三條 憲兵上等伍長及伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察區内ヲ巡視シ其ノ事情ヲ知悉スヘシ又必要ノ事件ハ常ニ其ノ地方警察官ト相互諜報スヘシ

第二十四條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區内ヲ巡察シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十五條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム

附則

第二十六條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ分隊長若クハ分隊副長ノ職ニ充ツルコトヲ得

第二十七條 明治二十八年勅令第九十五號憲兵條例第四章及第五章ハ更ニ補充及服役ニ關スル規程ヲ設クル迄仍其ノ効力ヲ有ス

(別表)

憲兵管區表	
管區名	區 域
第一憲兵管區	東京府 神奈川縣 千葉縣 山梨縣 群馬縣 栃木縣 茨城縣 長野縣 埼玉縣
第二憲兵管區	宮城縣 新瀉縣 青森縣 秋田縣 福島縣 巖手縣 山形縣
第三憲兵管區	愛知縣 石川縣 三重縣 富山縣 靜岡縣 岐阜縣 福井縣
第四憲兵管區	大阪府 京都府 兵庫縣 和歌山縣 滋賀縣 岡山縣 奈良縣 鳥取縣
第五憲兵管區	廣島縣 愛媛縣 山口縣 高知縣 島根縣 香川縣 德島縣
第六憲兵管區	熊本縣 長崎縣 福岡縣 鹿兒島縣 宮崎縣 佐賀縣 大分縣 沖繩縣

●臺灣憲兵隊條例

第七憲
兵管區

北海道

五百十

勅令第二百三十一号(參照)

明治二十八年七月四日官報勅令第九十五号憲兵條例第四章ハ補充、第五章ハ服役ニ關スル規定ナリ

朕臺灣憲兵隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月二十五日

陸軍 大臣 侯爵大山 巖
拓殖務大臣 子爵高島鞆之助

●臺灣憲兵隊條例 明治廿九年五月廿五日勅令

勅令第二百三十二號

臺灣憲兵隊條例

第一條 臺灣憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ臺灣總督之ヲ統率シ總督府管下ニ於ケル軍警警察、行政警察及司法警察ノ事務ヲ執行セシム其ノ他特ニ要スル服務ノ規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ臺灣總督府軍務局長ニ隸シ行政警察及司法警察ニ係ルモノハ臺灣總督府民政局長ニ隸ス

第三條 臺灣憲兵隊ノ職員左ノ如シ

- 憲兵隊本部
- 司令官 憲兵大中佐
- 副官 憲兵大尉及中尉
- 軍醫
- 獸醫

●臺灣憲兵隊條例

五百十一

軍吏

下副官(准士官)

憲兵曹長

書記

憲兵下士及軍吏部下士

蹄鐵工長若クハ蹄鐵工下長

看護長

憲兵區隊

隊長

憲兵少佐

副官

憲兵大尉及中尉

軍醫

獸醫

軍吏

下副官(准士官)

憲兵曹長

書記

憲兵下士及軍吏部下士

蹄鐵工長若クハ蹄鐵工下長

看護長

鞍工

銃工

靴工

分隊

分隊長

憲兵大尉

分隊副長

憲兵中尉

軍醫

上等伍長(准士官)

憲兵曹長

伍長

憲兵下士

書記

憲兵下士及軍吏部下士

憲兵上等兵

●臺灣憲兵隊條例

看護長

蹄鐵工

看病人

憲兵區隊長、副官、分隊長、分隊副長ハ豫備、後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノモノニ同シ

第四條 臺灣憲兵隊本部ハ臺灣總督府ノ所在地ニ之ヲ置キ各守備管區ニ憲兵區隊ヲ配置ス其ノ管轄區域ハ守備管區ノ區域ニ依ル之ヲ憲兵管區トス

第五條 憲兵管區ノ要地ニ分隊ヲ置キ其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區トス但必要ニ應シ憲兵分隊ノ一部ヲ分駐セシメ其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區ト爲スコトヲ得

第六條 憲兵管區ハ區隊ノ番號ヲ冠シ憲兵警察區ハ分隊又ハ分隊ノ一部分駐スル所在地ノ地名ヲ冠ス

第七條 各憲兵警察區ハ其ノ必要ニ應シ數箇ノ巡察區ニ分チ各巡察區ニハ憲兵一伍若クハ數伍ヲ配置ス

一伍ハ伍長一名憲兵上等兵六名乃至十二名ヲ以テ編組ス伍ハ其ノ必要ニ應シ伍長ヲ増加シ又之ニ乘馬ヲ附ス

第八條 憲兵警察區ハ總督之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵區隊長之ヲ定ム

第九條 總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ憲兵ヲ管區外ニ使用スルコトヲ得

第十條 伍若クハ二伍以上ノ憲兵ハ必要ニ應シ分隊副長、上等伍長若クハ高級ノ伍長ヲシテ其ノ指揮ヲ掌ラシム

第十一條 憲兵ハ行政警察及司法警察ニ就キ其ノ管轄區域内ニ在ル縣知事、島司、支廳長及法院檢察官ノ指示ヲ承ク

第十二條 憲兵ハ其ノ地方ノ守備ニ就テハ其ノ管轄區域内ニアル旅

團長又ハ守備隊長ノ指揮ヲ承クヘキモノトス

第十三條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第十四條 憲兵ハ特別ノ命令ヲ受クルニアラサレハ左ニ記載スル場合ノ外兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受クルトキ

二 其ノ占守スル所ノ土地若クハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第十五條 憲兵司令官ハ各憲兵區隊ヲ統轄シ本部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ軍務局長、民政局長ヲ經テ總督ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀、風紀、訓練、教育職務履行ノ程度ヲ檢

閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵區隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ軍務局長ヲ經テ總督ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵區隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵區隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ管轄區域内ノ旅團長、縣知事、法院檢察官ニ申報シ鄰接憲兵區隊長ニ通報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ警察區内ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ分隊ノ事務ヲ總理ス又區内ノ島司、支廳長及鄰接分隊長ト相互諜報スヘシ

憲兵分隊長非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ警察區内ノ守備隊長、島司、支廳長、法院檢察官及管轄憲兵區隊長

ニ申報シ鄰接分隊長ニ通報スヘシ

第二十一條 憲兵分隊副長一ノ警察區ニ分駐ヲ命セラレタルトキハ分隊長ト同一ノ職務ニ服ス但其ノ分隊長ノ統轄ヲ離ルハコナシ
憲兵分隊副長分隊長ノ許ニアルトキハ分隊長ヲ補佐シ分隊内ノ事務ヲ處理ス

第二十二條 憲兵上等伍長、伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察區内ヲ巡視シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十三條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區内ヲ巡察シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十四條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ總督之ヲ定ム

●陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サルモノハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ讀法ノ

式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

●陸軍刑法

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下
ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒
ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ケル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載スル
者ヲ謂フ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷
スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第
八十九條第九十條第一項第九十五條第百五條第百十一條第百十二
條第百十三條第百十四條第百十五條第百十六條ニ掲クル所ノ罪ヲ
犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百十九條第百二十條ノ
罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四
條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一
條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷
ス但其豫備者クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シ
テ處斷ス

第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三
編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ
在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス
主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム
第十六條 左ニ掲クル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期流刑
- 五 有期流刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁獄
- 九 輕禁獄

第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮

二 輕禁錮

第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治產
- 五 監視
- 六 沒收

第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ
之ヲ行フコトヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分テ島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス
第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分テ島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セ
ス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス
第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス
重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役
ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分テ十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ
其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條

第二十一條第二十二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ

此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限
内納完セス禁錮拘留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ
因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝
奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝
奪ス

第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附
加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フ

ヲ停止ス

五百二十六

第三十二條

普通刑法第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條

第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條

ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之レヲ適用ス

第三十三條

下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若シクハ海軍刑法ニ

依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖ヒ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ

主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復ス

ルコトヲ得

第三十四條

下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ

監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視

ニ付セス

第三十五條

普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第

五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條

第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條
第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此
刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條

此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲ク

ル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十七條

第八十七條第八十八條第八十九條第一百十八條第一百九

條第一百二十條第一百二十一條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ

左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

●陸軍刑法

五百二十七

五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章及第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

ルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ劓官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フル

ヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ

十日以下ニ降ヌコトヲ得其減シ盡ヌ時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下

ノ禁錮ニ處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 劓官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條
第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十五條第八十九條
第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條
第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不論罪減輕再犯加重加減順
序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ
在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論ス
ルコトヲ得ス

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ
經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條
ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法剝官ヲ附加セサル
禁錮ノ罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮

若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處
スル時ト雖モ將校ハ仍ホ剝官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏
ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百
四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載
スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八
條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第百十九條第百二
十五條ニ掲クル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ
一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ
依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス
但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在

●陸軍刑法

ラス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ普通刑法
第百十一條第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ
適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及
ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス
其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ
處ス

諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ
有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫
掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ヲニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス
者ハ死刑ニ處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土
地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ
處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若ク
ハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ秘密ヲ要
スル兵器彈藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第五十五條 軍人敵圍ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラ
シメントシテ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬪ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀛車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス
敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ

第六十二條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第六十三條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劓官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲クル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劓官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ

死刑ニ處ス

上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行ニ當リ之ニ對シ暴行

●陸軍刑法

ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劓官ヲ附加ス
其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁獄ニ處
シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劓官ヲ附
加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ
重禁錮ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル
時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下
ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ將
校ハ劓官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相鬪毆スル者首魁ハ二年以上五年以

下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一

將校ハ劓官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ
助クル者ハ重禁錮ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲
役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若
クハ現ニ戰鬥ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁瀛車電線ヲ毀壞スル者ハ
重懲役ニ處シ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積
スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス
其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹

ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十一條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
哨兵衛兵安リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

本條第一項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第九十二條 軍人職權ヲ妄用シテ人ヲ監禁制縛シ其他凌虐ノ所爲アル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

●陸軍刑法

シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條

軍人擅ニ哨令ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條

哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條

哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ

第一百二條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第三百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將官ハ剝官ヲ附加ス

第三百四條 司令官命令ニ從フコトヲ得サル時部署若クハ其命セラル、所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三百五條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三百六條 軍人允許ヲ得テ地方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三百七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三百八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校剝官ヲ附加ス

第三百十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若シクハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五百一十一條

五百四十八

軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第五百一十二條

軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁獄ニ處ス

第五百一十三條

軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第五百一十四條

軍人前二條ニ掲クル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五百一十五條

軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ輕禁獄ニ處ス

第五百一十六條

軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡

第五百一十七條

軍人擅ニ職役營クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス

第五百一十八條

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第五百一十九條

軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ル、者ハ逃亡ト爲シ輕懲役ニ處ス

第五百二十條

軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕懲役ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

其他ノ犯人ハ第一百七七條第百十八條ニ照シテ處斷ス
第百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス
其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第百二十四條 軍人疾病ヲ詐爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、トヲ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ル、トヲ圖ル者亦同シ

第十章 結黨

第百二十五條 軍人黨ヲ結ヒ軍事ニ關スル規則命令ノ施行ヲ妨ケ若クハ之ヲ妨ケント謀リ其他服從法ニ違フ者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第百二十六條 軍人前條ニ記載スル所爲ヲ首唱教唆シ未タ黨ヲ爲スニ至ラサルトキ其首唱教唆者ノ刑ハ前條首魁ノ刑ニ一等若クハ二等ヲ減シ將校ハ劊官ヲ附加ス

●海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス
若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ

輕キニ從テ處斷ス

第三條 第八十四條第九十一條第九十三條第九十八條第九十九條第
百二條第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百二十七條
第百二十八條第百二十九條第百三十條第百三十一條第百三十二條
ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處

斷ス

教唆若クハ幫助シテ第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪
ヲ犯サシメタル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條
第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シ
タル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其
豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス
第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三
編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第百三
十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期流刑
- 五 有期流刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁獄
- 九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治產
- 五 監視
- 六 沒收

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第十三條

前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條

第十四條

徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條

第十九條第廿條第廿一條第廿二條第廿三條第廿四條ノ例ニ同シ

第十五條

定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二

十五條ノ例ニ同シ但シ此刑法及普通刑法陸軍刑法ノ禁錮ニ處シ職役ヲ免セサル者ハ工錢ヲ與フル限ニアラス

第三節 附加刑處分

第十六條

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條

剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

第十八條

剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條

將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者

ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二十二條

禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

第二十三條

監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四

十條第四十一條ノ例ニ同シ

●海軍刑法

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止マ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第三十四條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止マ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ
第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第三十一條 第九十九條第百四條第百五條第百六條第百七條第百三十三條第百三十四條第百三十五條第百三十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

ルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ劊官ヲ附加ス

輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本輕劊官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分テス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ

時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條

第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第九章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第百條第百二條第百三條ノ例ニ同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタ

ル時亦一ノ重キニ從テ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ劓官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト劓官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ劓官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ劓官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ劓官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十二條第九十五條第九十六條第九十七條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第百二十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ

依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

豫備後備ノ軍籍ニアル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ

軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下スヘキ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

區別ニ從テ處斷ス

一 首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二 諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スヲ謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ依リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武

庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ秘密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
其陰謀ヲ爲シ未ダ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本

刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劔官ヲ附加ス
第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ
家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二
年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劔官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得キ時ニ於テ敵ニ降り又ハ其
艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス
第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船

若クハ兵隊ヲ率非遁走シタル者ハ死刑ニ處ス
第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ

死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク乘ニ先ヲ

テ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
- 二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス
- 三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ
付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日
以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略
ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一年以上一年以下
ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲
サル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ劔官ヲ附加ス
敵前ニ在テ我船舶ヲ救援スヘキ時故ナク其事ヲ爲サル者亦同